

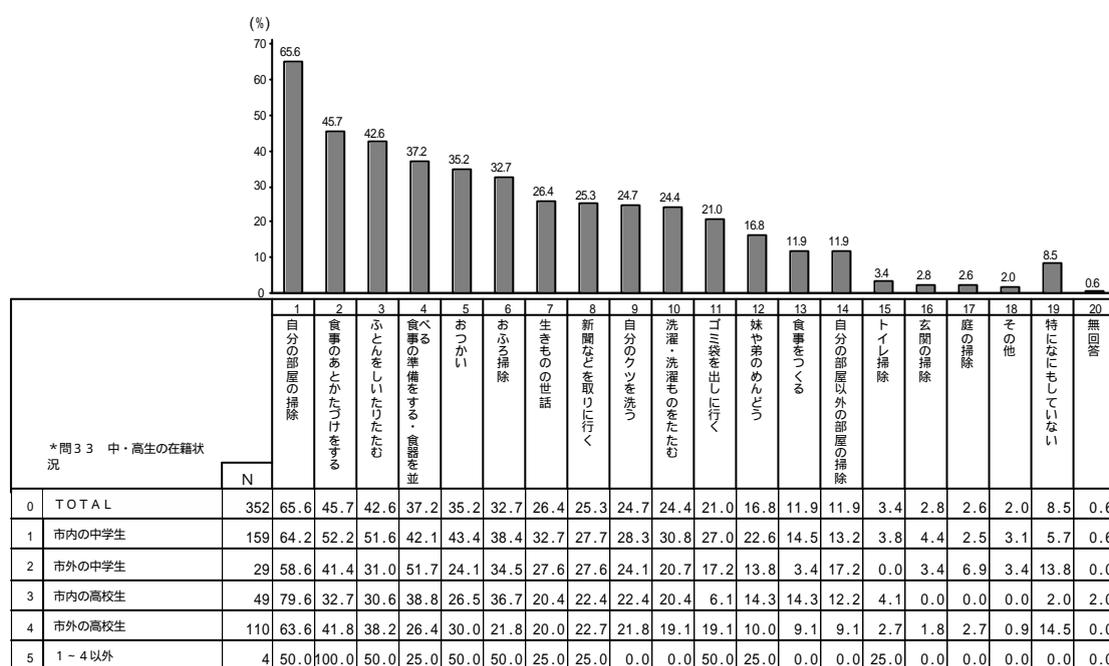
「中学高校生の年代」の調査結果

1. 日常生活について

(1) 子どもがふだん自分ですること(問1)(複数回答)

ふだん自分でやっていることを聞いている。その結果、「自分の部屋の掃除」(65.6%)が特に高く、約3分の2の人が自分でやっている。そのほか、回答が5割を超えているものはないが、以下、「食事のあとかたづけ」(45.7%)、「ふとんをしいたりたたむ」(42.6%)、「食事の準備(食器を並べる)」(37.2%)、「おつかい」(35.2%)、「おふる掃除」(32.7%)がいずれも30~40%台となっている。なお、「特になにもしていない」(8.5%)人は約1割である。

これを中学・高校の在籍状況別にみると、ほとんどのことがらにおいて、高校生に比べて中学生の方がやっている割合が高い。しかし、「自分の部屋の掃除」のみは中学生に比べて高校生の方が高くなっており、特に「市内の高校生」(79.6%)では約8割にのぼっている。また、多くのことがらにおいて、市外通学生に比べて市内通学生の方がやっている割合が高く、その傾向は中学生において特に顕著になっており、「ふとんをしいたりたたむ」と「おつかい」に関しては、『市内の中学生』(ふとん:51.6%、おつかい:43.4%)の方が『市外の中学生』(ふとん:31.0%、おつかい:24.1%)に比べて約20ポイント高くなっている。



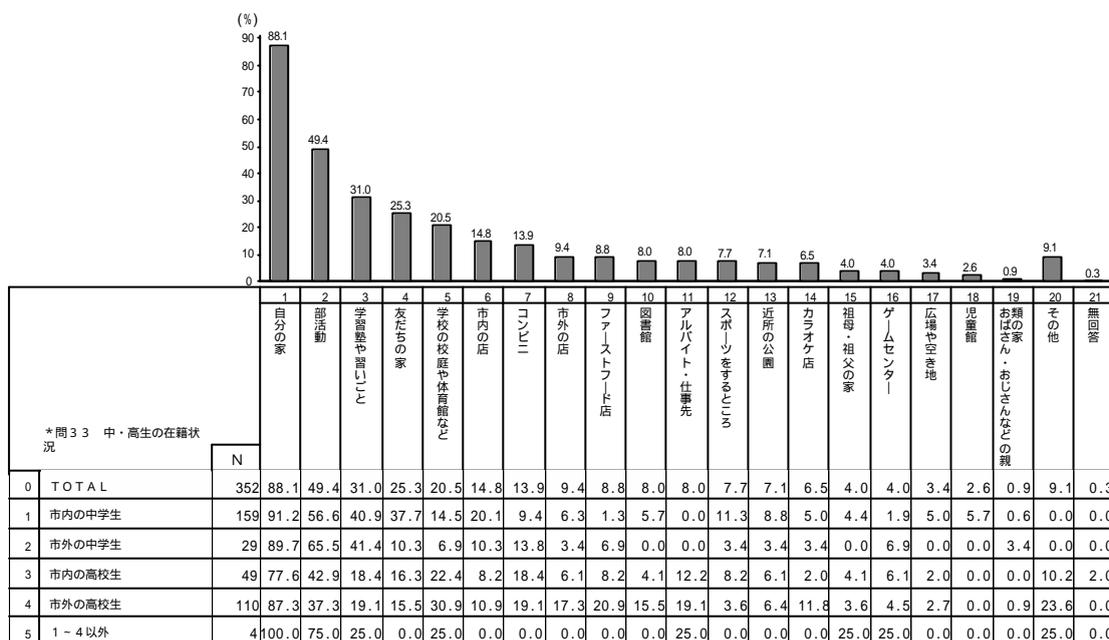
宛名の子どものに籍状況別無回答 N=1を除く

(2) 平日、学校や仕事終了後の主な過ごし場所(問2)(5つまでの制限回答)

平日の学校や仕事が終わってから主に過ごしている場所については、「自分の家」が88.1%で最も高く、次いで「部活動」(49.4%)が約5割となっている。以下、「学習塾や習いごと」(31.0%)、「友だちの家」(25.3%)、「学校(校庭や体育館など)」(20.5%)がいず

れも2～3割で続いており、そのほかの場所はいずれも5%未満にとどまっている。

これを中学・高校の在籍状況別にみると、すべての在籍校において、1位は「自分の家」、次いで「部活動」となっているが、両者とも高校生に比べて中学生の方が顕著に高くなっており、中学生では「部活動」(市内：56.6%、市外：65.5%)が6割前後にのぼっている。また、3位に関しては中学と高校で顕著な違いがみられ、中学生では「学習塾や習いごと」(市内：40.9%、市外：41.4%)が4割を超えて3位を占めているのに対し、高校生では「学校(校庭や体育館など)」(市内：22.4%、市外：30.9%)が3番目に高くなっている。また、「市外の店」「コンビニ」「ファーストフード店」「アルバイト・仕事先」は、中学生に比べて高校生の方が顕著に高くなっており、特に『市外の高校生』(順に17.3%、19.1%、20.9%、19.1%)ではいずれも2割前後にのぼっている。

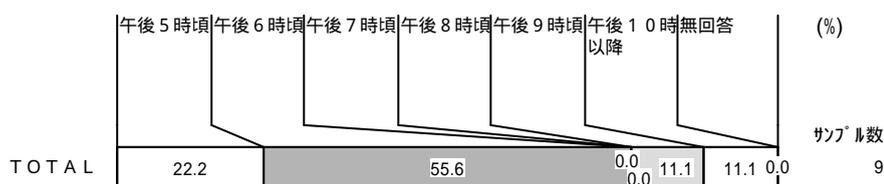


宛名の子ども の在籍状況別無回答 N=1を除く

(3) 平日の外出先からの帰宅時間(問2-1)

児童館で過ごしたあと

問2において「児童館」に回答している人に、児童館で過ごした後に自宅へ帰ってくる時間を聞いている。その結果、「午後6時頃」が55.6%を占め、次いで「午後5時頃」が22.2%となっている。

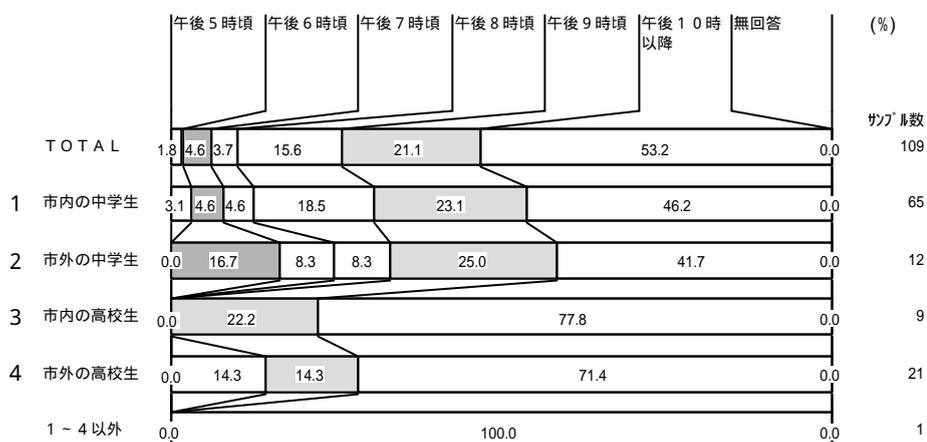


学習塾や習いごとで過ごしたあと

問2において「学習塾や習いごと」に回答している人に、学習塾や習いごとで過ごした後に自宅へ帰ってくる時間を聞いている。その結果、「午後10時以降」(53.2%)が5割を超えており、次いで「午後9時頃」が21.1%となっており、帰宅が午後9時以降となる人

が約4分の3(74.3%)にのぼる。

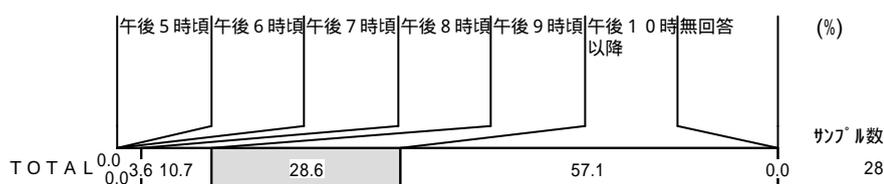
これを中学・高校の在籍状況別にみると、中学生に比べて高校生では「午後10時以降」が一層高く、7~8割を占めており、これに「午後9時頃」をあわせると、帰宅が午後9時以降となる人が9割前後を占める。一方、中学生でも「午後10時以降」が4割を超えて特に高く、次いで「午後9時」が2割強となっており、帰宅が午後9時を過ぎる人が7割近くを占めている。



宛名の子ども の 在籍状況別無回答 N=1 を除く

アルバイト・仕事先で過ごしたあと

問2において「アルバイト・仕事先」に回答している人に、アルバイトや仕事先で過ごした後に自宅へ帰ってくる時間を聞いている。その結果、「午後10時以降」(57.1%)が6割弱を占めており、次いで「午後9時頃」が28.6%となっており、帰宅が午後9時以降となる人が9割近く(85.7%)を占めている。

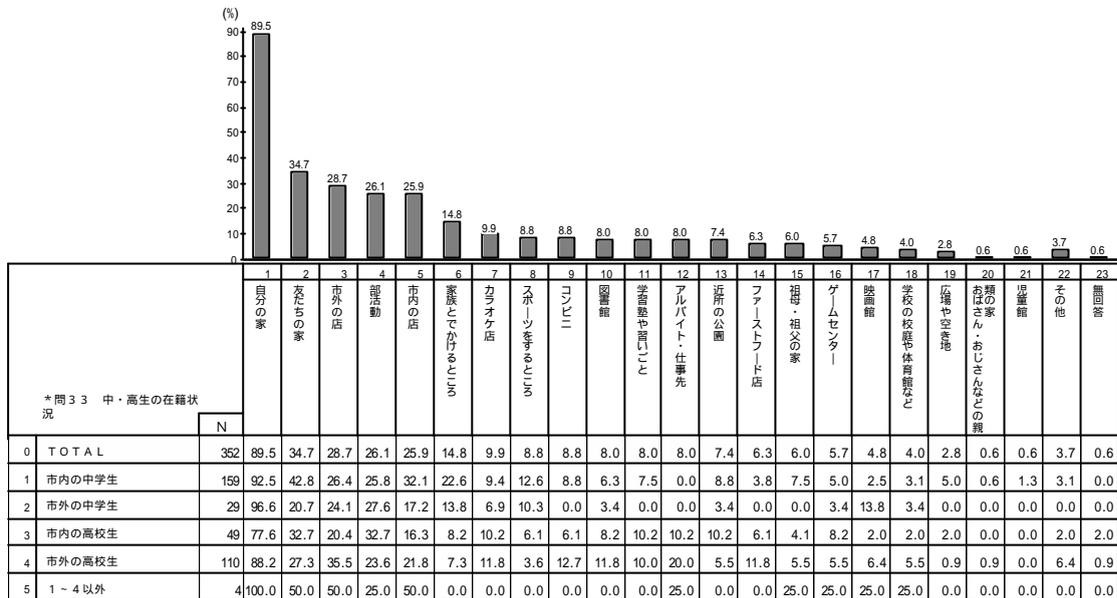


(4) 休日の主な過ごし場所(問3)(5つまでの制限回答)

学校が休みの日に主に過ごしている場所については、「自分の家」が89.5%で顕著に高い。以下、「友だちの家」(34.7%)、「市外の店」(28.7%)、「部活」(26.1%)、「市内の店」(25.9%)がいずれも3割前後、「家族とでかけるところ」が14.8%となっているほかは、いずれも1割未満にとどまっている。全体的にみると、「自分の家」のほかは4割を超えている場所はなく、また、多くの場所が1割未満にとどまっており、一人当たりが回答している場所は平均3箇所程度にとどまっている。

これを中学・高校の在籍状況別にみると、在籍校にかかわらず「自分の家」が8~9割前後で最も高くなっているが、特に中学生では95%前後にのぼり、高校生に比べても一層高くなっている。また、全体で2割を超えている場所は、在籍校別にみてもほとんどが2~3割前後となっているが、中でも「友だちの家」と「市内の店」は『市内の中学生』(友だち

の家：42.8%、市内の店：32.1%)において特に高くなっており、「市外の店」は『市外の高校生』(35.5%)において特に高くなっている。なお、全体では2割未満にとどまっているものの、在籍校別にみると高いのは、『市外の高校生』における「アルバイト・仕事先」(20.0%)と、『市内の中学生』における「家族とでかけるところ」(22.6%)で、いずれも2割を超えている。



宛名の子ども の 在籍状況別無回答 N=1 を除く

(5) 休日の外出先からの帰宅時間(問3-1)

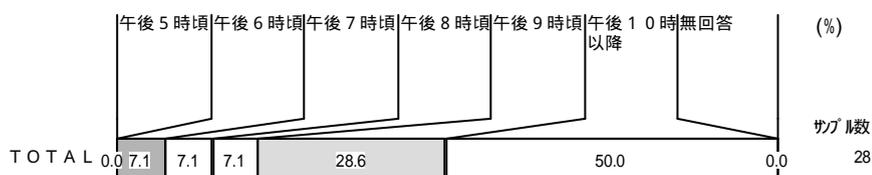
学習塾や習いごとで過ごしたあと

問3において「学習塾や習いごと」に回答している人に、学習塾や習いごとで過ごした後に自宅へ帰ってくる時間を聞いている。その結果、「午後10時以降」(46.4%)が5割弱を占めて特に高く、次いで「午後8時頃」(21.4%)が約2割となっている。



アルバイト・仕事先で過ごしたあと

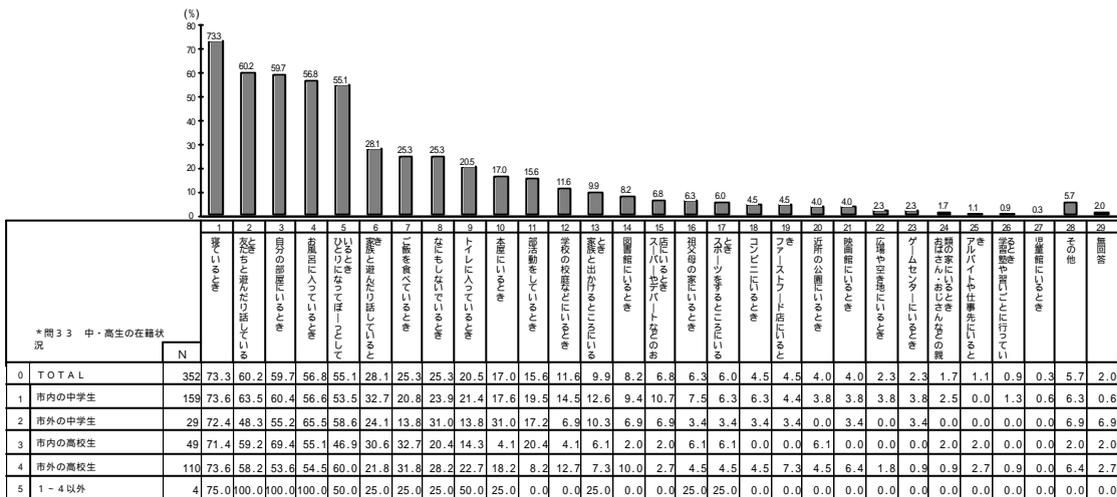
問3において「アルバイト・仕事先」に回答している人に、アルバイトや仕事先で過ごした後に自宅へ帰ってくる時間を聞いている。その結果、「午後10時以降」(50.0%)が半数を占めて特に高く、次いで「午後9時頃」(28.6%)が約3割となっており、帰宅が午後9時を過ぎる人が約8割(78.6%)を占めている。



(6) ほっとできるとき(問4)(複数回答)

ほっとできるときは、「寝ているとき」が73.3%で最も高く、これに、「友だちと遊んだり話しているとき」(60.2%)、「自分の部屋にいるとき」(59.7%)、「お風呂に入っているとき」(56.8%)、「ひとりになってぼーっとしているとき」(55.1%)が6割前後で続いており、いずれも半数以上の人々が「ほっとできる」と回答している。全体に、自宅でひとりで過ごしている場面や、家族や友人と過ごしている時への回答が上位に多くみられるが、自宅以外の場所の中では、「部活動をしているとき」(15.6%)と「本屋にいるとき」(17.0%)がいずれも2割弱と、他の場所に比べると若干高くなっている。

これを中学・高校の在籍状況別にみると、いずれも「寝ている時」が7割を超えて特に高く、以下、全体で5割を超えている項目は、在籍校別にみても5~6割前後にのぼっている。しかし、「自分の部屋にいるとき」は、市内通学生では6~7割にのぼり、市外通学生に比べて10ポイント程度高くなっており、代わって、市外通学生では「なにもしないでいるとき」が約3割と、市内通学生に比べて10ポイント近く高くなっている。また、「友だちと遊んだり話しているとき」は、『市内の中学生』(63.5%)では6割を超えているのに対し、『市外の中学生』では48.3%にとどまり、代わって、『市外の中学生』では「本屋にいるとき」が31.0%と、他の在籍校に比べて顕著に高くなっている。

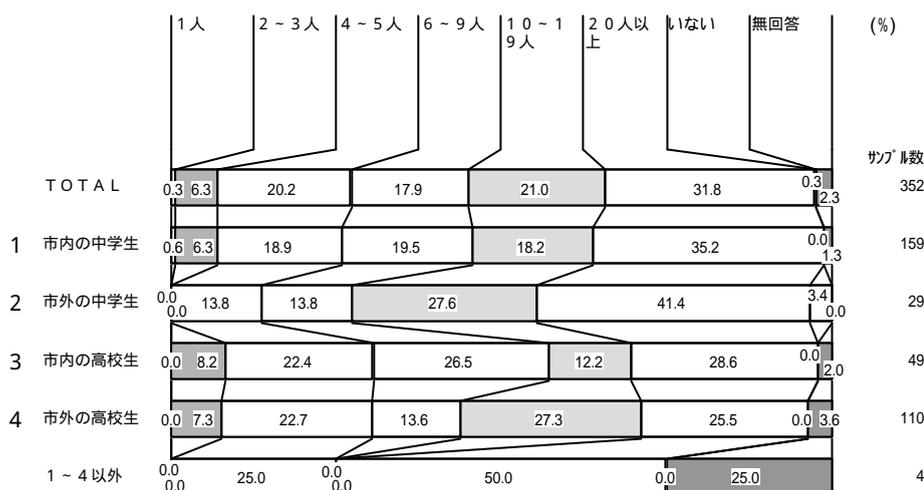


宛名の子どもの在籍状況別無回答 N=1を除く

(7) 一緒に遊んだり話したりする友だちの人数(問5)

一緒に遊んだり話したりする友だちの人数は、「20人以上」(31.8%)とする人が約3割を占める一方、「10~19人」(21.0%)、「6~9人」(17.9%)、「4~5人」(20.2%)とする人もいずれも2割前後ずつみられる。

これを中学・高校の在籍状況別にみると、「20人以上」とする割合は、中学生では3~4割(市内:35.2%、市外:41.4%)にのぼっており、高校生に比べて高くなっている。一方、高校生では「20人以上」(市内:28.6%、市外:25.5%)は3割未満と、中学生に比べて低く、代わって、「2~3人」や「4~5人」が中学生に比べて高くなっており、高校生では友だちの人数が5人以下という人が約3割(市内:30.6%、市外:30.0%)を占め、高校生になると、友だちの人数が限定されてくる状況がうかがえる。

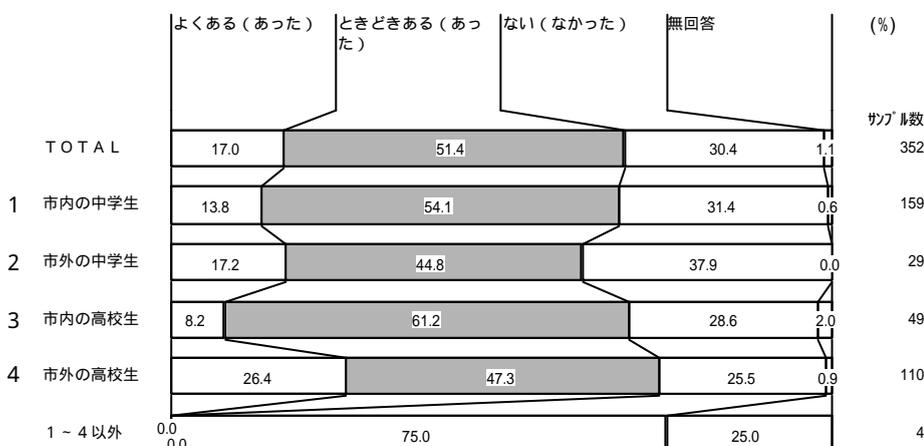


宛名の子ども の 在籍状況別無回答 N=1 を除く

(8) 登校拒否 (学校に行きたくないと思うこと) の経験 (問6)

学校に行きたくなくなるのが「よくある(あった)」(17.0%)という人は2割弱である。これに「ときどきある(あった)」(51.4%)をあわせると68.4%と、全体の約7割の人は「学校に行きたくない」という経験をしている。

これを中学・高校の在籍状況別にみると、「よくある(あった)」とする割合が特に高いのは『市外の高校生』で、学校に行きたくないと思うことが「よくある」(26.4%)という人が4分の1を超えている。



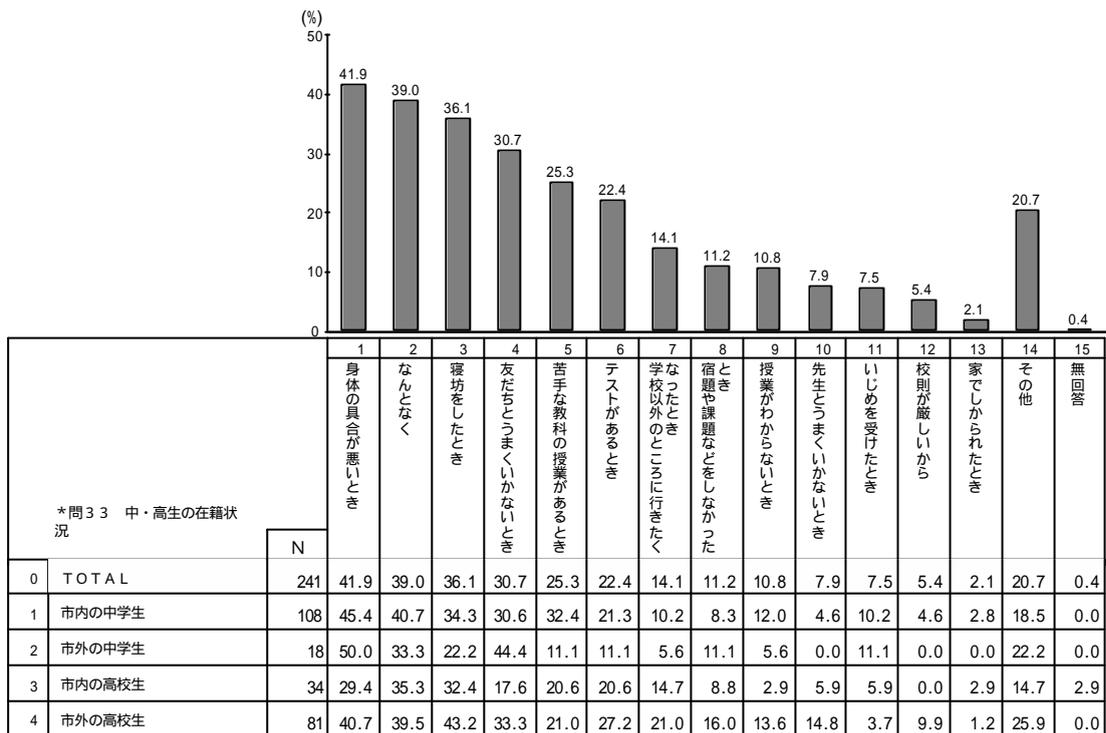
宛名の子ども の 在籍状況別無回答 N=1 を除く

(9) 学校に行きたくないと思うとき (問6-1) (複数回答)

問6で「よくある(あった)」「ときどきある(あった)」と回答している人にその理由を聞いたところ、「身体の具合が悪いとき」(41.9%)と「なんとなく」(39.0%)が約4割で最も高く、これに「寝坊をしたとき」(36.1%)が続いており、本人の体調に関わる理由が上位を占める。次いで「友だちとうまくいかないとき」(30.7%)が約3割、「苦手な教科の授業があるとき」(25.3%)や「テストがあるとき」(22.4%)といった授業に関わる内容が2割強となっており、そのほかはいずれも1割前後にとどまっている。なお、「その他」

(20.7%)への回答が2割を超えているが、その具体的な内容をみると、「眠いとき」「だるいとき(つかれているとき)」「面倒くさい」といった内容が大多数を占めているほか、「部活がきついとき」や「学校が嫌い」などが見受けられる。

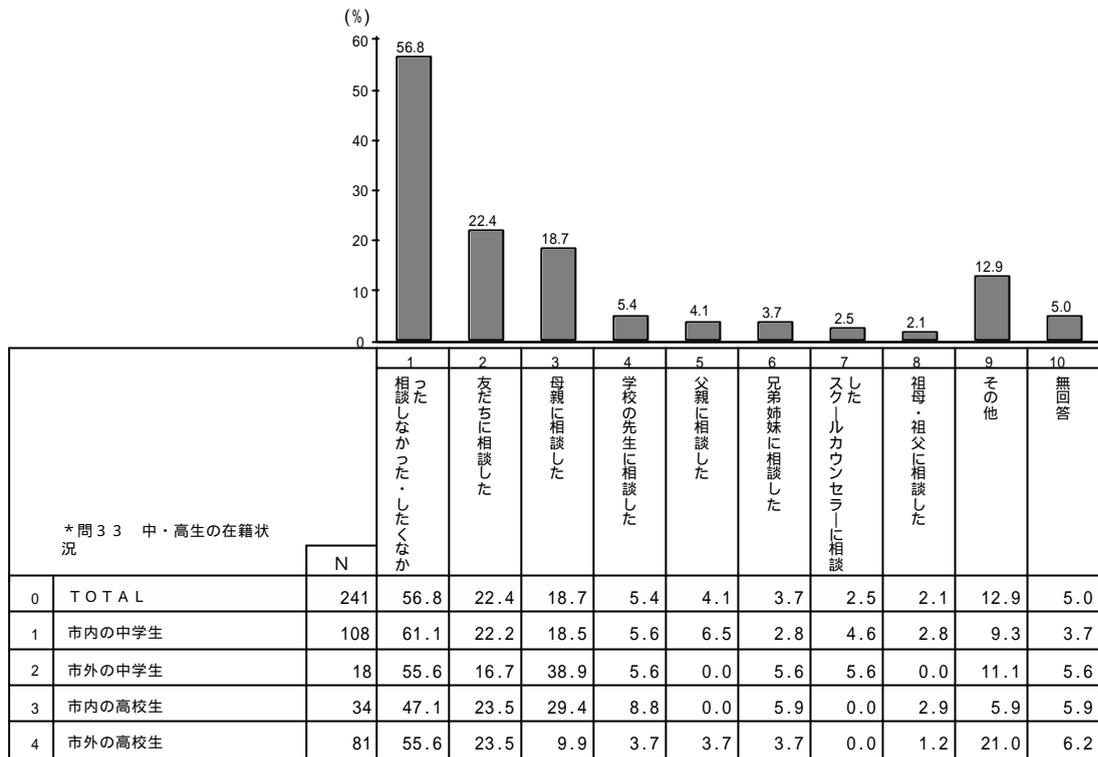
これを中学・高校の在籍状況別にみると、学校に行きたくないと思う割合が特に高い『市外の高校生』では、全体で2割を超えている内容はいずれも高くなっているが、加えて、「学校以外のところに行きたくなくなったとき」が21.0%と、2割を超え、他の在籍校に比べても高くなっている。また、中学生では「友だちとうまくいかないとき」「いじめを受けたとき」「身体の具合が悪いとき」が高校生に比べて若干高く、交友関係や本人の体調に関わる理由は中学生の方が高くなっている。



(10) 学校に行きたくないときの相談相手(問6-2)(複数回答)

問6で「よくある(あった)」「ときどきある(あった)」と回答している人に、そのときどうしたかを聞いたところ、「相談しなかった・しなくなかった」(56.8%)が6割近くを占めている。以下、「友だちに相談した」(22.4%)と「母親に相談した」(18.7%)が2割前後となっているほかは、いずれも5%以下にとどまっている。なお、「その他」(12.9%)への回答が1割強みられるが、その具体的な内容は、「自分で解決」「我慢してそのまま学校に行った(普通に学校へ行った)」といったものが大多数を占めている。

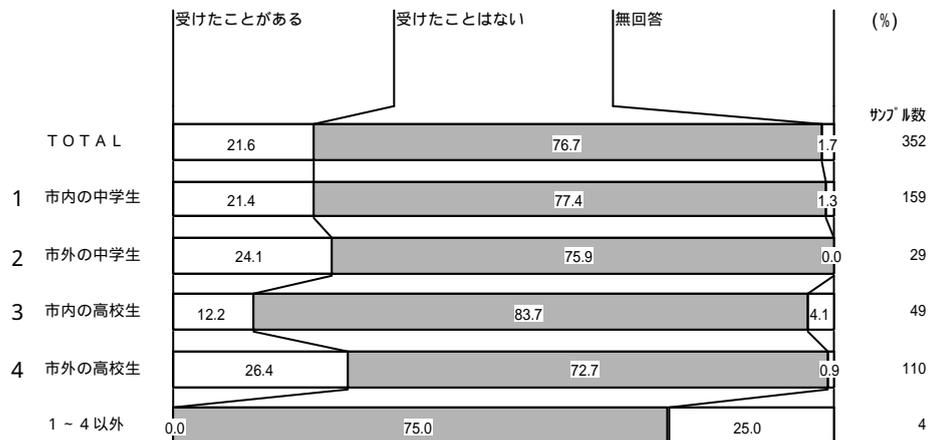
これを中学・高校の在籍状況別にみると、学校に行きたくないと思う割合が特に高い『市外の高校生』では、「その他」が21.0%と、特に高くなっている。また、「友だちに相談した」とする割合では顕著な差はみられないが、「母親に相談した」とする割合は、『市内の中学生』(18.5%)では約2割にのぼっているのに対し、『市外の高校生』(9.9%)では約1割にとどまっている。(なお、サンプルが少ない層は分析からはずしている。)



(11) いじめを受けた経験(問7)

いじめを「受けたことがある」という人は21.6%と、全体の約2割である。

これを中学・高校の在籍状況別にみると、いじめを「受けたことがある」という割合は市内通学生に比べて市外通学生の方が若干高く、特に『市外の高校生』では26.4%と、4分の1を超えている。

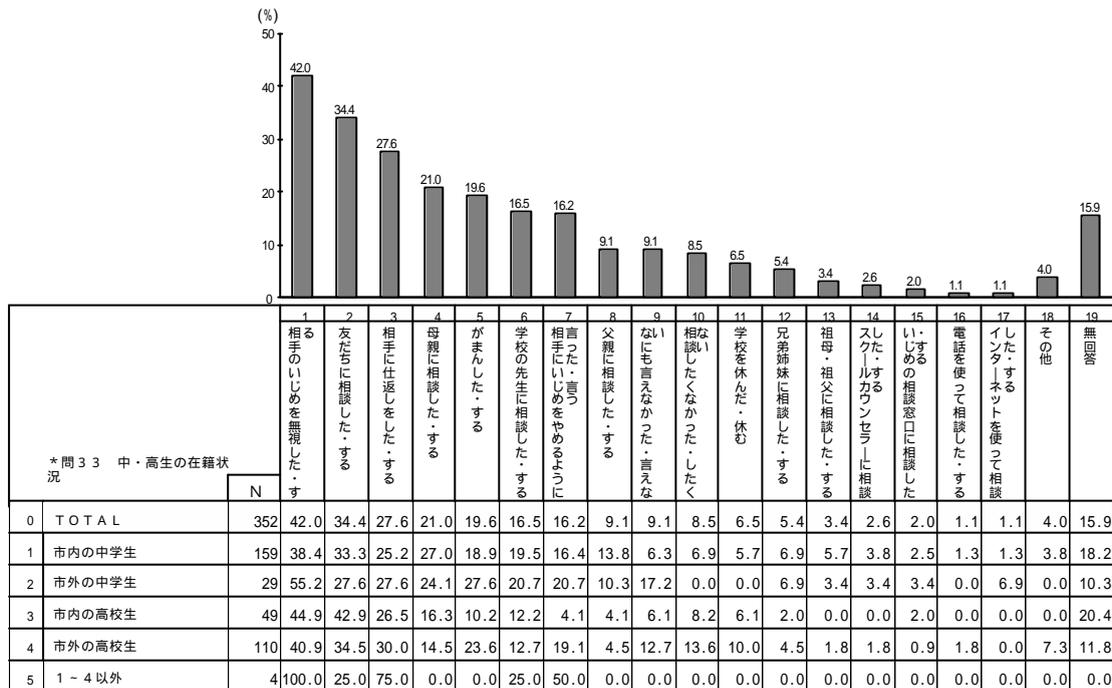


宛名の子ども の在籍状況別無回答 N=1 を除く

(12) いじめを受けたときの対応の仕方(問7-1)(複数回答)

いじめを受けたときの対応については、「相手のいじめを無視した(する)」が42.0%で最も高い。以下、「友だちに相談した(する)」が34.4%、「相手に仕返しをした(する)」が27.6%、「母親に相談した(する)」(21.0%)と「がまんした(する)」(19.6%)がいずれも約2割となっている。

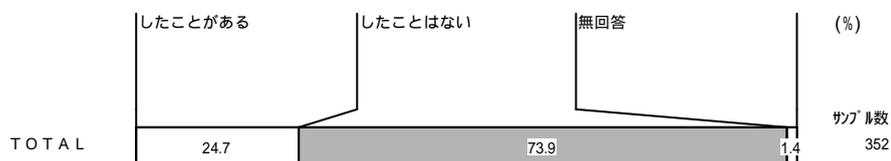
これを中学・高校の在籍状況別にみると、全体で2位である「友だちに相談した(する)」は、中学生に比べて高校生の方が高く、また、市外通学生に比べて市内通学生の方が高くなっており、『市内の高校生』では42.9%にのぼっている。一方、両親や学校の先生に相談するという割合は、いずれも中学生の方が高く、また、「がまんした(する)」や「何も言えなかった(言えない)」は、市内通学生に比べて市外通学生の方が10ポイント前後高くなっている。以上の結果より、年齢が高くなるほど、両親よりも友だちに相談する人が多くなっているが、市内通学生に比べて市外通学生は友だちに相談する人も少なく、我慢したり何も言えずに過ごしている人が若干多くなっているといった状況がうかがえる。



宛名の子どもに在籍状況別無回答 N=1を除く

(13) いじめをした経験(問8)

いじめを「したことがある」という人は24.7%で、いじめの経験がある人が全体の約4分の1を占めている。なお、この割合はいじめを「受けたことがある」という割合(問7参照)とほぼ一致している。



(14) いじめをしたとき(あと)の気分(問8-1)(複数回答)

問8で「したことがある」と回答している人に、そのとき(後)どんな気分がしたかを聞いたところ、「後悔した」(49.4%)が約5割にのぼって最も高く、これに「ちょっと悪かったと思った」(43.7%)が4割強で続いており、多くの方がいじめのあとに反省をしている状況がうかがえる。しかし一方、「すっきりした」(16.1%)、「見つからなければいい

と思った」(11.5%)、「またいじめてやろうと思った」(9.2%)といった回答もいずれも 1割前後みられる。なお、「その他」(11.5%)への回答が約 1割みられるが、その具体的な内容をみると、「悲しかった」「後々までつらい」といったものだけでなく、「なんとも思わない」といったものも含まれている。

これを中学・高校の在籍状況別にみると、「すっきりした」「見つからなければいいと思っただ」は中学生ではいずれも 2割前後にのぼり、高校生に比べて高くなっている。

		1 後悔した	2 ちょっと悪かったと思った	3 すっきりした	4 見つからなければいいと思っ	5 またいじめてやろうと思った	6 その他	7 無回答	
*問33 中・高生の在籍状況		N							
0	TOTAL	87	49.4	43.7	16.1	11.5	9.2	11.5	1.1
1	市内の中学生	41	56.1	43.9	22.0	19.5	9.8	7.3	0.0
2	市外の中学生	6	33.3	50.0	16.7	16.7	0.0	16.7	0.0
3	市内の高校生	5	80.0	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
4	市外の高校生	34	41.2	38.2	11.8	2.9	11.8	17.6	2.9
5	1～4以外	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(15) 自分自身についての考え方(問9)

自分自身のことに関する以下の 5 つの意見のそれぞれについて、自分の考えと一致するかどうかを回答してもらった。

自分のことが好きだ

「そう思う」(23.6%)という回答は 2割強で、これに「ややそう思う」(32.1%)をあわせると 55.7%と、「自分のことが好きである」という人は全体の 5割強である。

自分は人から必要とされている

「そう思う」(12.2%)という回答は 1割強にとどまるが、これに「ややそう思う」(37.8%)をあわせると 50.0%と、「自分は人から必要とされている」と思っている人は全体の半数である。

自分のことを誰もわかってくれない

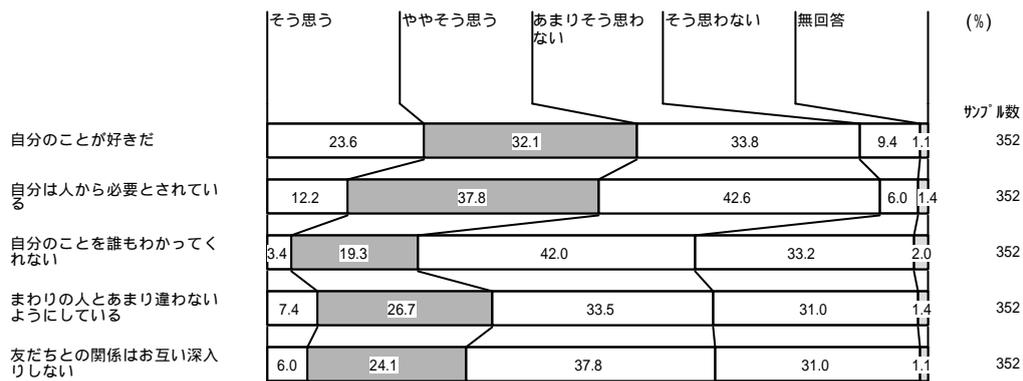
「そう思う」(3.4%)もしくは「ややそう思う」(19.3%)とする人は 22.7%と、「自分のことを誰もわかってくれない」と感じている人は全体の 2割強である。

まわりの人とあまり変わらないようにしている

「あまりそう思わない」(33.5%)が最も高く、これに「そう思わない」(31.0%)をあわせると 64.5%と、否定的な意見が 3分の 2 近くを占め、「ややそう思う」(26.7%)と「そう思う」(7.4%)をあわせた肯定的な意見が 34.1%であるのに比べて高く、「まわりの人とあまり変わらないようにしている」という考えには否定的な意見の人が多くなっている。

友だちとの関係はお互い深入りしない

「あまりそう思わない」(37.8%)と「そう思わない」(31.0%)がいずれも 3割を超えており、両者をあわせると 68.8%と、否定的な意見が約 7割を占め、「ややそう思う」(24.1%)と「そう思う」(6.0%)をあわせた肯定的な意見が 30.1%であるのに比べて高くなっており、「友だちとの関係はお互い深入りしない」という考えには否定的な意見の人が多くなっている。



(16) 規範意識 (問 10)

規範意識を問う次の 10 の行為のそれぞれについて、どの程度いけないと思うかを回答してもらった。

酒を飲む

「絶対にいけない」(20.7%)、「いけない」(24.7%)、「場合によってはいけない」(33.2%)「特に問題ない」(20.7%)のいずれも 2~3 割の回答がみられ、規範意識を問う 10 項目の中で最も意見が分散している。中でも、「特に問題ない」が 2 割を超えているのは本項目のみで、全 10 項目の中でも顕著に高くなっている。これに「場合によってはいけない」をあわせると 53.9%と、行為を肯定する意見が半数以上を占め、その割合は『親との約束した帰宅時間を守らない』に次いで高くなっている。

タバコを吸う

「絶対にいけない」とする人が 52.6%で最も高く、次いで「いけない」が 24.4%となっており、両者をあわせると 77.0%と、全体の 8 割近くの人には「いけないことである」と考えている。一方、「場合によってはいけない」(14.8%)や「特に問題ない」(7.7%)といった、行為を肯定する意見も 2 割を超えている。

シンナーなどの薬物を使う

「絶対にいけない」とする人が 90.1%にのぼり、規範意識を問う 10 項目の中で最も高くなっている。また、これに「いけない」(6.8%)をあわせると 96.9%にのぼり、ほぼ全員が「いけないことである」と考えている。

テレクラに電話をする

「絶対にいけない」とする人が 57.7%で最も高く、次いで「いけない」が 29.8%となっており、両者をあわせると 87.5%と、全体の 9 割近くの人には「いけないことである」と考えている。一方、「場合によってはいけない」(8.0%)や「特に問題ない」(3.4%)といった、行為を肯定する意見も約 1 割みられる。

援助交際をする

「絶対にいけない」とする人が 67.0%で最も高く、次いで「いけない」が 21.0%となっており、両者をあわせると 88.0%と、全体の約 9 割の人は「いけないことである」と考えている。一方、「場合によってはいけない」(8.2%)や「特に問題ない」(2.3%)といった、行為を肯定する意見も約 1 割みられる。

万引きをする

「絶対にいけない」とする人が 74.7%で最も高く、次いで「いけない」が 21.0%となっており、両者をあわせると 95.7%にのぼり、「いけないことである」と考えている割合は、

『シンナーなどの薬物を使う』に次いで高くなっている。

親の財布からだまって金を持ち出す

「絶対にいけない」とする人が67.6%で最も高く、次いで「いけない」が24.1%となっており、両者をあわせると91.7%にのぼり、「いけないことである」と考えている割合は、『シンナーなどの薬物を使う』『万引きをする』に次いで高くなっている。一方、「場合によってはいけない」(6.0%)や「特に問題ない」(1.7%)といった、行為を肯定する意見も1割近くみられる。

親との約束した帰宅時間を守らない

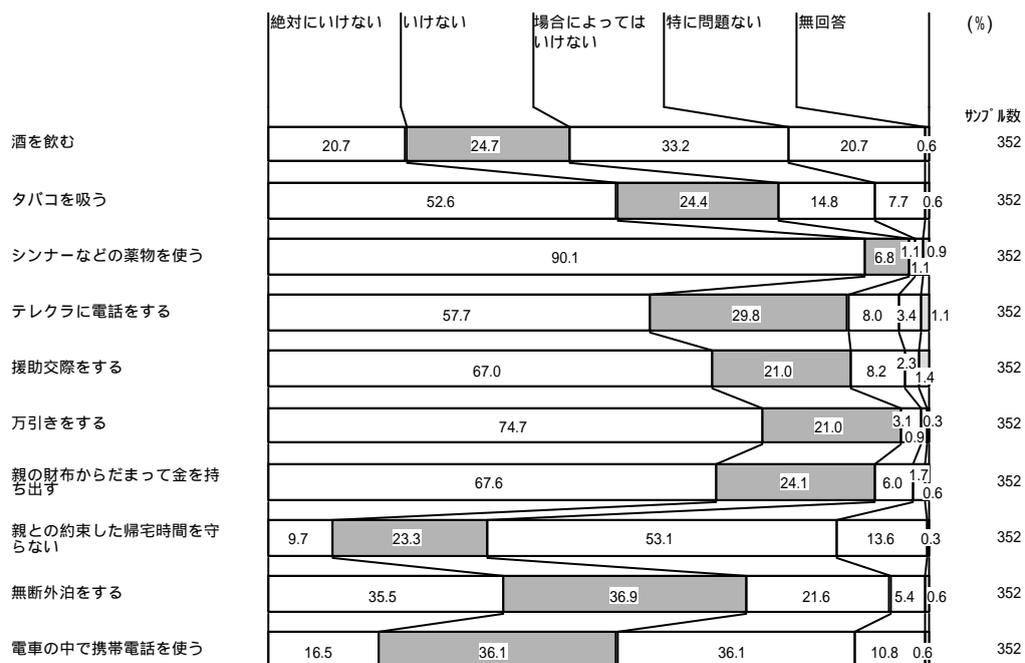
「場合によってはいけない」が53.1%と、5割を超えて最も高く、これに「特に問題ない」(13.6%)をあわせると66.7%にのぼり、全体の約3分の2の人は、特にいけないこととは考えてなく、その割合は、規範意識を問う10項目の中で最も高くなっている。一方、「絶対にいけない」(9.7%)とする人は1割未満にとどまっており、全10項目の中で最も低くなっている。

無断外泊をする

「絶対にいけない」(35.5%)と「いけない」(36.9%)がいずれも約35%ずつで最も高くなっており、両者をあわせると72.4%と、全体の7割強の人は「いけないことである」と考えているが、「場合によってはいけない」(21.6%)という意見も2割を超えており、これに「特に問題ない」(5.4%)をあわせると27.0%と、行為を肯定する意見も4分の1以上みられる。

電車の中で携帯電話を使う

「いけない」と「場合によってはいけない」がいずれも36.1%で最も高くなっている。なお、「場合によってはいけない」もしくは「特に問題ない」(10.8%)とする人は46.9%であるのに対し、「いけない」もしくは「絶対にいけない」(16.5%)とする人は52.6%となっており、電車の中での携帯電話使用の是非に関しては意見が分かれている。

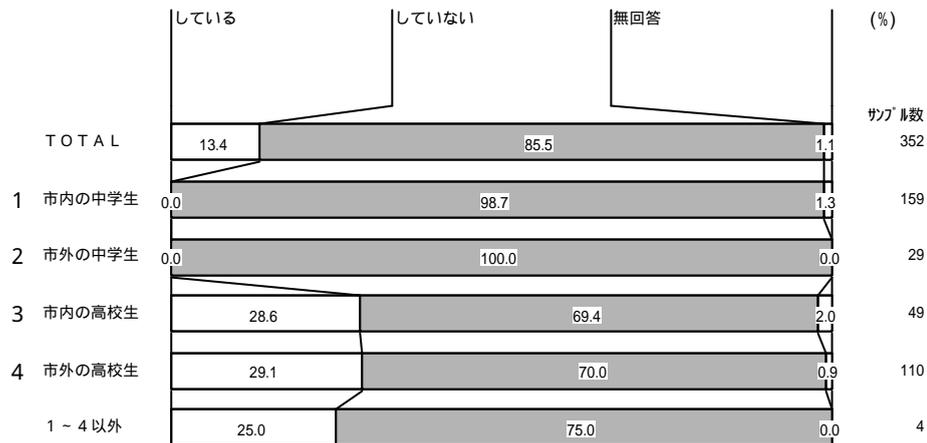


2. アルバイトや仕事について

(1) アルバイトや仕事の状況 (問 11)

現在、アルバイトや仕事を「している」という人は 13.4%と、1 割強である。

これを中学・高校の在籍状況別にみると、中学生ではアルバイトや仕事を「している」人はいない。一方、高校生ではアルバイトや仕事を「している」(市内:28.6%、市外:29.1%)人は約 3 割となっている。



宛名の子どもが現在アルバイトや仕事をしていない状況 (問 11)

(2) アルバイトや仕事をする理由 (問 11 - 1) (複数回答)

現在、アルバイトや仕事を「している」という人に、その理由を聞いている。その結果、「おこづかいが足りないから」(72.3%)が 7 割を超えて顕著に高くなっており、これに「社会勉強のため」(38.3%)が約 4 割で続いている。以下、「オシャレのため」(31.9%)、「ヒマな時間があるから」(31.9%)、「いろいろな人と知りあえるから」(29.8%)がいずれも約 3 割、「趣味のため」「高価なものをかうため」がいずれも 25.5%となっており、理由が多岐に渡っている。

*問 3 3 中・高生の在籍状況	N	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
		おこづかいが足りないから	社会勉強のため	オシャレのため	ヒマな時間があるから	いろいろな人と知りあえるから	高価なものをかうため	趣味のため	生活費のため	学費のため	責任感が強くなるから	礼儀正しくなるから	将来の職業に役立つから	友だちがやっているから	その他	無回答
0 TOTAL	47	72.3	38.3	31.9	31.9	29.8	25.5	25.5	12.8	10.6	10.6	8.5	4.3	2.1	12.8	0.0
3 市内の高校生	14	78.6	50.0	7.1	21.4	28.6	7.1	7.1	7.1	0.0	21.4	7.1	0.0	7.1	21.4	0.0
4 市外の高校生	32	68.8	31.3	43.8	34.4	31.3	34.4	31.3	15.6	15.6	6.3	9.4	3.1	0.0	9.4	0.0
5 1~4以外	1	100.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0

(3) 将来つきたい仕事 (問 12)

将来、つきたいと思う仕事は、「低収入でも自分の好みの仕事につきたい」が 36.1%と、4 割近くにのぼって顕著に高くなっている。これに、「収入が安定した仕事につきたい」(17.3%)、「家庭を大事にできる仕事につきたい」(10.8%)、「一流大学を出て望みの仕事につきたい」(7.7%) がいずれも 1 割前後で続いている。

これを中学・高校の在籍状況別にみると、『市外の高校生』と『市内の高校生』では、「低収入でも自分の好みの仕事につきたい」が顕著に高く、これに「収入が安定した仕事につきたい」と「家庭を大事にできる仕事につきたい」がいずれも 1 割強で続いており、全体と同様の傾向がみられる。しかし、『市内の中学生』では「低収入でも自分の好みの仕事につきたい」(27.7%)と「収入が安定した仕事につきたい」(23.3%) がいずれも 25%前後となっており、前者は他の在籍校に比べて顕著に低く、後者は他の在籍校に比べて高くなっている。また、『市外の中学生』では「低収入でも自分の好みの仕事につきたい」(48.3%) に次いで「一流大学を出て望みの仕事につきたい」(13.8%) が 2 番目に高くなっている。

* 問 3 3 中・高生の在籍状況		N	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
			低収入でも自分の好みの仕事につきたい	収入が安定した仕事につきたい	家庭を大事にできる仕事につきたい	一流大学を出て望みの仕事につきたい	大変でも高収入の仕事につきたい	NGOやNPOなどの社会に奉仕できる仕事につきたい	アルバイトやフリーターをし	アルバイ	現在の仕事を続けていきたい	その他	わからない
0	TOTAL	352	36.1	17.3	10.8	7.7	2.6	2.6	0.3	0.0	8.2	11.6	2.8
1	市内の中学生	159	27.7	23.3	8.8	6.3	2.5	1.9	0.6	0.0	10.1	16.4	2.5
2	市外の中学生	29	48.3	6.9	6.9	13.8	3.4	6.9	0.0	0.0	3.4	10.3	0.0
3	市内の高校生	49	36.7	10.2	12.2	6.1	4.1	4.1	0.0	0.0	6.1	10.2	10.2
4	市外の高校生	110	44.5	15.5	13.6	8.2	1.8	0.9	0.0	0.0	8.2	6.4	0.9
5	1-4以外	4	50.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

宛名の子どもの在籍状況別無回答 N=1 を除く

(4) 専門学校や大学などにかかる費用の考え方 (問 13)

専門学校や大学などにかかる費用の負担に関する次の 3 つの意見のそれぞれについて、自分の考えと一致するかどうかを回答してもらった。

自分が働いて負担すべきだ

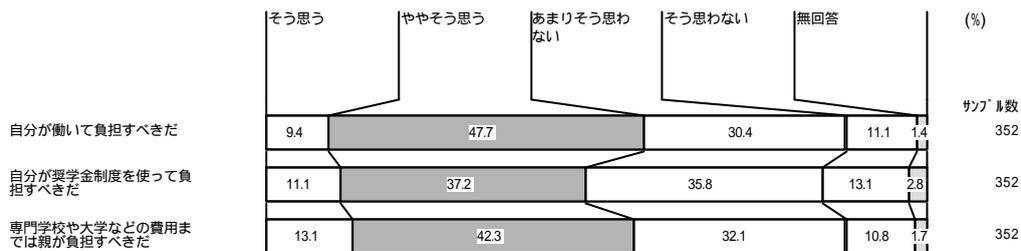
「ややそう思う」が 47.7%を占めて最も高く、これに「そう思う」(9.4%)をあわせると 57.1%と、6 割近くにのぼり、「自分が働いて負担すべきだ」という意見には肯定的な人の方が若干多くなっている。

自分が奨学金制度を使って負担すべきだ

「ややそう思う」(37.2%)と「あまりそう思わない」(35.8%)がいずれも 35%強で最も高く、「ややそう思う」と「そう思う」(11.1%)をあわせると 48.3%、「あまりそう思わない」に「そう思わない」(13.1%)をあわせると 48.9%と、「自分が奨学金制度を使って負担すべきだ」という考え方に対しては意見が分かれている。

専門学校や大学などの費用までは親が負担すべきだ

「ややそう思う」が 42.3%を占めて最も高く、これに「そう思う」(13.1%)をあわせると 55.4%と、6 割近くにのぼり、「専門学校や大学などの費用までは親が負担すべきだ」という意見には肯定的な人の方が若干多くなっている。



(5) 大人になるのに必要だと思うこと(問14)

「大人になる」ために、次の8つのことがらが必要であると思うかどうかを聞いている。
自分で食事をつくる

「とても必要」が53.4%で最も高く、次いで「少し必要」が36.6%となっており、両者をあわせると90.0%と、「大人になる」のに必要と考える人が9割を占めている。一方、「あまり必要でない」(8.5%)や「ぜんぜん必要でない」(0.9%)とする人も1割程度みられる。

経済的に自立する

「とても必要」(75.9%)とする人が約4分の3にのぼり、「大人になる」のに必要かどうかを問う8項目の中でも『自分の行動に責任をもつ』に次いで高くなっている。なお、これに「少し必要」(20.7%)をあわせると96.6%にのぼり、ほぼ全員が「大人になる」のに必要であると考えている。

ひとり住まいをする

「少し必要」が42.6%で最も高く、次いで「あまり必要でない」が31.3%となっている。なお、「少し必要」に「とても必要」(22.4%)をあわせると、必要であるとする人は約3分の2(65.0%)にのぼっている。一方、「あまり必要でない」に「ぜんぜん必要でない」(3.1%)をあわせた、必要でないとする人も約3分の1(34.4%)みられ、「大人になる」のに必要かどうかを問う8項目の中では、「必要でない」とする割合が最も高くなっている。

ある程度の学歴をつける

「少し必要」(50.0%)が5割を占めて最も高く、これに「とても必要」(20.7%)と「あまり必要でない」(21.9%)がいずれも約2割で続いている。なお、「少し必要」に「とても必要」をあわせると、必要であるとする人は約7割(70.7%)にのぼっている。一方、「あまり必要でない」に「ぜんぜん必要でない」(6.8%)をあわせた、必要でないとする人も約3割(28.7%)みられ、「大人になる」のに必要かどうかを問う8項目の中では、『ひとり住まいをする』に次いで、「必要でない」とする割合が高くなっている。

きちんとした職業につく

「とても必要」が56.0%で最も高く、次いで「少し必要」が31.0%となっており、両者をあわせると87.0%と、「大人になる」のに必要と考える人が9割近くを占めている。一方、「あまり必要でない」(11.4%)や「ぜんぜん必要でない」(0.9%)とする人も1割程度みられる。

自分の行動に責任をもつ

「とても必要」(89.8%)とする人が約9割にのぼり、「大人になる」のに必要かどうかを問う8項目の中で最も高くなっている。なお、これに「少し必要」(8.8%)をあわせる

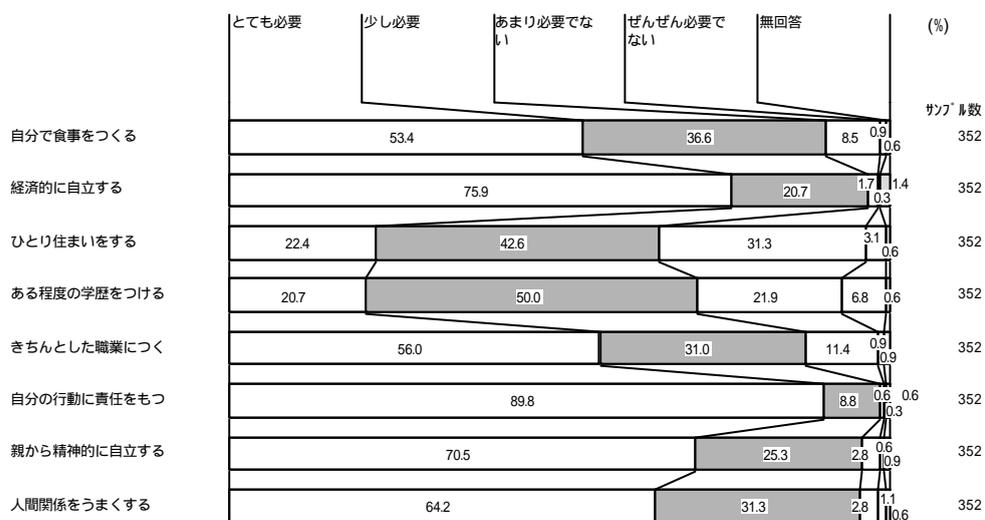
と 98.6%にのぼり、ほぼ全員が「必要である」と考えている。

親から精神的に自立する

「とても必要」(70.5%)とする人が約7割を占めて最も高く、次いで「少し必要」が25.3%となっており、両者をあわせると95.8%にのぼり、「大人になる」のに必要であると考えている割合は、8項目の中でも『自分の行動に責任をもつ』『経済的に自立する』に次いで高くなっている。

人間関係をうまくする

「とても必要」とする人が64.2%で最も高く、次いで「少し必要」が31.3%となっており、両者をあわせると95.5%にのぼり、「大人になる」のに必要であると考えている割合は、8項目の中でも『自分の行動に責任をもつ』『経済的に自立する』に次いで、『親から精神的に自立する』と並んで高くなっている。



(6) インターネット手段の所持状況 (問15) (複数回答)

インターネットができるものを「持っていない」(17.0%)という人は2割弱にとどまり、「家族が共有するパソコンを持っている」(61.1%)人は約6割、「自分の携帯電話やPHSなどを持っている」(51.1%)人は約5割となっている。なお、「自分のパソコンを持っている」人は7.7%である。

これを中学・高校の在籍状況別にみると、「自分の携帯電話やPHSなどを持っている」という割合は、中学生(市内:31.4%、市外:27.6%)では3割前後であるのに対し、高校生(市内:79.6%、市外:72.7%)では7~8割にのぼっている。

		0	1 家族が共有するパソコンを持っている	2 自分の携帯電話やPHSなどを 持っている	3 自分のパソコンを持っている	4 持っていない	5 無回答
*問33 中・高生の在籍状況		N					
0	TOTAL	352	61.1	51.1	7.7	17.0	0.9
1	市内の中学生	159	57.2	31.4	5.0	26.4	1.3
2	市外の中学生	29	75.9	27.6	13.8	10.3	0.0
3	市内の高校生	49	71.4	79.6	10.2	4.1	2.0
4	市外の高校生	110	59.1	72.7	7.3	11.8	0.0
5	1～4以外	4	25.0	50.0	50.0	0.0	0.0

宛名の子どもの在籍状況別無回答 N=1を除く

(7) インターネットの使いみち (問15-1) (複数回答)

インターネットができるものを「持っている」(問15で「1」～「3」に回答)という人に、それを利用して主にどのようなことをしているかを聞いている。その結果、「Eメールをする」が73.7%で最も高く、持っている人のうち約4分の3の人がEメールを利用している。次いで、「情報を探すために使う」(69.2%)と「趣味のために使う」(62.6%)がいずれも6～7割となっており、そのほかはいずれも3割未満にとどまっている。

これを中学・高校の在籍状況別にみると、高校生では「Eメールをする」(市内:82.6%、市外:82.5%)が8割を超えて最も高く、その割合は中学生(市内:61.7%、市外:76.9%)に比べても高くなっている。一方、中学生では「情報を探すために使う」(市内:65.2%、市外:84.6%)が最も高くなっている。

		0	1 Eメールをする	2 情報を探すために使う	3 趣味のために使う	4 勉強や学習のために使う	5 チャットをする	6 つくる 自分・家族のホームページを	7 市のホームページをみる	8 その他	9 無回答
*問33 中・高生の在籍状況		N									
0	TOTAL	289	73.7	69.2	62.6	27.7	13.5	6.6	0.7	2.8	1.7
1	市内の中学生	115	61.7	65.2	63.5	24.3	13.0	2.6	0.9	5.2	4.3
2	市外の中学生	26	76.9	84.6	65.4	34.6	15.4	15.4	0.0	3.8	0.0
3	市内の高校生	46	82.6	73.9	63.0	21.7	10.9	6.5	0.0	2.2	0.0
4	市外の高校生	97	82.5	66.0	59.8	30.9	14.4	8.2	0.0	0.0	0.0
5	1～4以外	4	75.0	100.0	75.0	50.0	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0

宛名の子どもの在籍状況別無回答 N=1を除く

3. 体についての知識や考え方

(1) 体についての知識 (問16)

体に関する以下の6つのことについて、どの程度知っているかを聞いている。

男女の体の構造について

「よく知っている」(31.8%)という人は約3割であるが、「少し知っている」が60.2%にのぼって顕著に高く、両者をあわせると、「知っている」とする人が9割以上(92.0%)を占め、全6項目の中で最も高くなっている。

月経について

「よく知っている」(40.6%)と「少し知っている」(40.3%)がいずれも約4割を占めて最も高く、特に「よく知っている」とする割合は、全6項目の中で最も高くなっている。なお、両者をあわせると、「知っている」とする人は約8割(80.9%)となっている。一方、「ほとんど知らない」(17.0%)という人も2割近くみられる。

妊娠について

「よく知っている」(31.8%)という人は約3割であるが、「少し知っている」が54.0%にのぼって顕著に高く、両者をあわせると、「知っている」とする人が9割近く(85.8%)を占め、全6項目の中では『男女の体の構造について』に次いで高くなっている。

中絶について

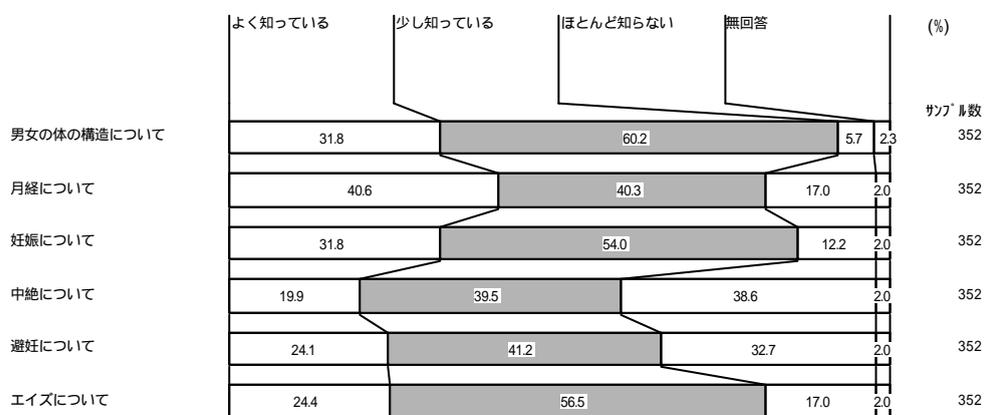
「少し知っている」(39.5%)と「ほとんど知らない」(38.6%)がいずれも約4割で最も高くなっている。特に「ほとんど知らない」とする割合は、全6項目の中で最も高く、最も認識が低いことがらとなっている。

避妊について

「少し知っている」(41.2%)が約4割で最も高いが、これに、「ほとんど知らない」(32.7%)が3割強で続いており、その割合は『中絶について』に次いで高く、全6項目の中では認識が低いことがらとなっている。

エイズについて

「よく知っている」(24.4%)という人は2割強であるが、「少し知っている」が56.5%にのぼっており、両者をあわせると、「知っている」とする人が約8割(80.9%)となっている。一方、「ほとんど知らない」(17.0%)とする人も2割近くみられる。



(2) 体についての知識の情報入手先 (問16-1) (複数回答)

問16で体について「知っている」と回答している人に、その情報の入手先を聞いている。その結果、「学校の授業」が84.6%にのぼって顕著に高い。次いで、「友だち」(42.6%)が4割強、「本や雑誌など」(34.6%)と「テレビ」(30.5%)が3割強となっている。

これを中学・高校の在籍状況別にみると、「学校の授業」は在籍校にかかわらず8~9割にのぼっており、顕著な差はみられない。しかし、2位以下の「友だち」「本や雑誌など」「テレビ」は、中学生に比べて高校生の方が高くなっており、高校生では「友だち」(市内:50.0%、市外:50.5%)は約5割、「本や雑誌など」(市内:37.5%、市外:43.0%)と「テレビ」(市内:35.4%、市外:37.4%)は4割前後にのぼっている。

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
			1 学校の授業	2 友たち	3 本や雑誌など	4 テレビ	5 母親	6 インターネット	7 姉や兄	8 父親	9 その他	10 無回答
*問33 中・高生の在籍状況		N										
0	TOTAL	338	84.6	42.6	34.6	30.5	18.9	3.8	2.4	0.9	2.4	5.9
1	市内の中学生	151	79.5	33.8	29.1	28.5	23.2	4.0	2.6	0.7	2.6	6.6
2	市外の中学生	28	89.3	46.4	28.6	3.6	17.9	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1
3	市内の高校生	48	89.6	50.0	37.5	35.4	16.7	2.1	4.2	0.0	0.0	2.1
4	市外の高校生	107	87.9	50.5	43.0	37.4	15.0	4.7	1.9	0.9	3.7	6.5
5	1～4以外	4	100.0	50.0	25.0	50.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0

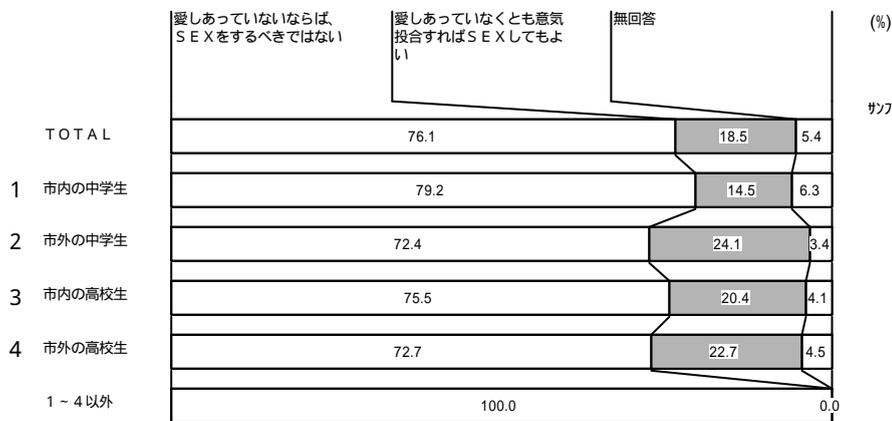
(3) 10代の性的関係に対する考え方(問17)(各設問2者択一)

10代の性的関係に関して、次のA、B、C、Dの4つの条件ごとに相反する2つの意見を並べ、自分の価値観と一致する方を選択してもらった。

A：愛とSEX

「愛しあっていないならば、SEXをするべきではない」(76.1%)とする人が約4分の3を占め、「愛しあっていないくとも、意気投合すればSEXしてもかまわない」(18.5%)という意見を大きく上回っている。

これを中学・高校の在籍状況別にみると、「愛しあっていないならば、SEXをするべきではない」とする割合は、『市内の中学生』では79.2%と、約8割にのぼっているのに対し、『市外の高校生』では72.7%にとどまっており、愛を伴わないSEXを認める声は、中学生に比べて高校生の方が、また市内通学生に比べて市外通学生の方が若干多くなっている。



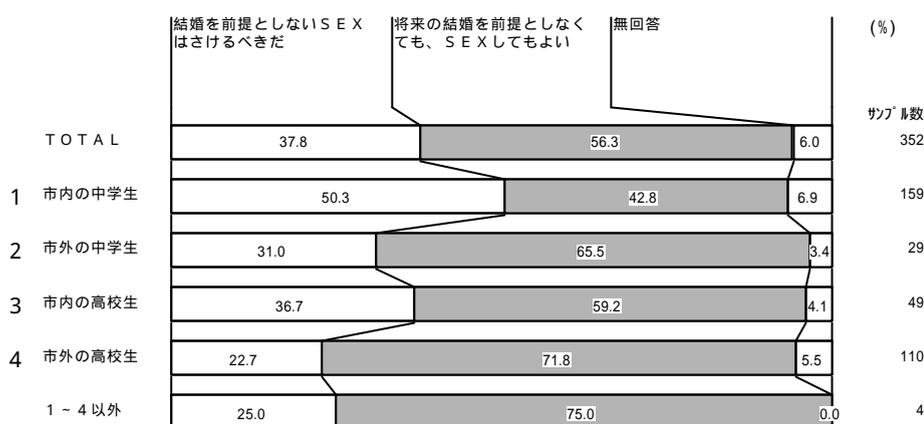
宛名の子どもに在籍別無回答 N=1を除く

B：結婚とSEX

「将来の結婚を前提としなくても、SEXしてもかまわない」(56.3%)とする人が6割弱を占めているのに対し、「結婚を前提としないSEXはさけるべきだ」(37.8%)も4割弱にのぼっており、『結婚とSEX』については、性的関係に関する他の考え方と比べて価値観が多様になっている。

これを中学・高校の在籍状況別にみると、『市内の中学生』では「結婚を前提としないSEXはさけるべきだ」(50.3%)の方が高いのに対し、『市外の高校生』では「将来の結婚を前提としなくても、SEXしてもかまわない」(71.8%)の方が顕著に高くなっており、

結婚を前提としないSEXを認める声は、中学生に比べて高校生の方が、また市内通学生に比べて市外通学生の方が若干多くなっている。

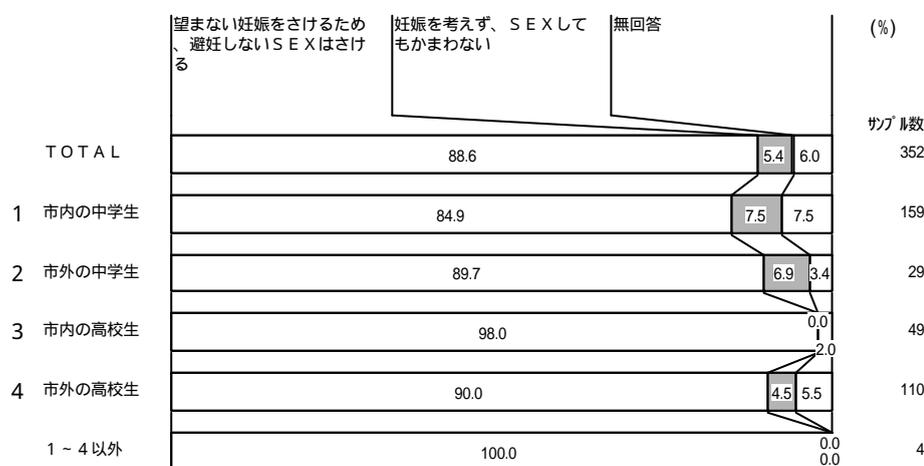


宛名の子どもに在籍別無回答 N=1を除く

C：妊娠とSEX

「望まない妊娠を避けるため、避妊しないSEXはさけるべきだ」(88.6%)とする人が9割近くを占め、「妊娠を考えず、SEXしてもかまわない」(5.4%)とする意見を大きく上回っている。

これを中学・高校の在籍状況別にみると、「妊娠を考えず、SEXしてもかまわない」とする割合は、高校生では5%未満(市内：0.0%、市外：4.5%)にとどまっているのに対し、中学生(市内：7.5%、市外：6.9%)では7%前後にのぼっており、妊娠を無視したSEXを容認する声は、高校生に比べて中学生の方が若干多くなっている。

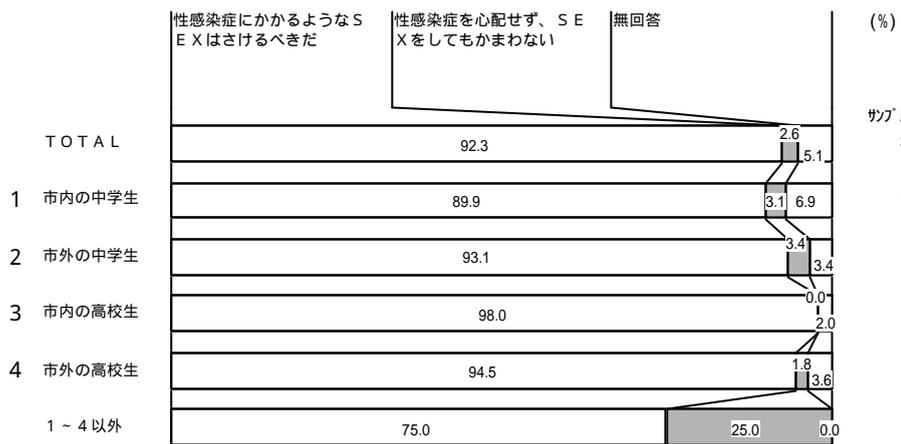


宛名の子どもに在籍別無回答 N=1を除く

D：性感染症とSEX

「性感染症にかかるようなSEXはさけるべきだ」(92.3%)とする人が9割以上を占め、「性感染症を心配せずSEXしてもかまわない」(2.6%)という意見を大きく上回っている。

これを中学・高校の在籍状況別にみると、「性感染症を心配せずSEXしてもかまわない」とする割合は、高校生ではほとんどみられない(市内：0.0%、市外：1.8%)のに対し、中学生(市内：3.1%、市外：3.4%)では約3%と、性感染症に関係なくSEXを容認する声は、高校生に比べて中学生の方が若干多くなっている。



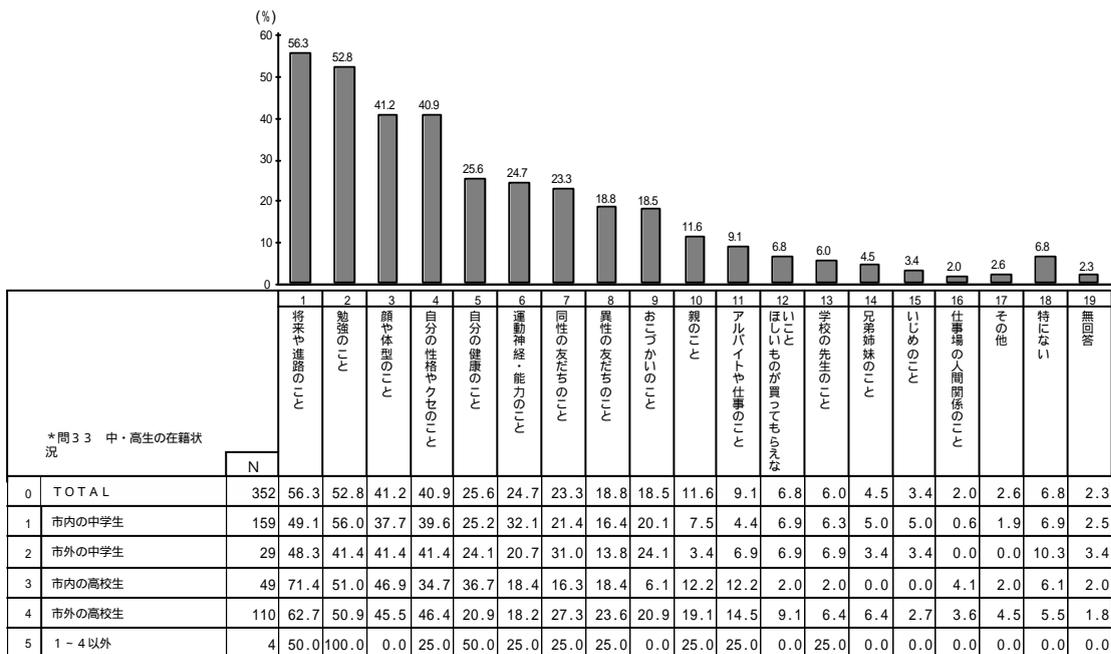
宛名の子ども達の在籍別無回答 N=1を除く

4. 不安や悩みについて

(1) 悩みや不安に思うこと(問18)(複数回答)

心配や悩みごとは、「将来や進路のこと」が56.3%で最も高く、これに「勉強のこと」(52.8%)が続いており、いずれも半数以上の人々が不安を感じている。次いで、「顔や体型のこと」(41.2%)と「自分の性格やクセのこと」(40.9%)がいずれも約4割となっている。全体的にみると、勉強や進路に関わる悩みと自分自身のことでの悩みが高くなっており、人間関係での悩みに関しては、回答が少ない。

これを中学・高校の在籍状況別にみると、『市内の高校生』『市外の高校生』では「将来や進路のこと」が6～7割にのぼって1位となっているのに対し、『市内の中学生』では「勉強のこと」が56.0%で1位となっている。



宛名の子ども達の在籍別無回答 N=1を除く

(2) 悩みや不安の相談相手(問19)(複数回答)

心配や悩みごとがあったときに相談する相手は、「同年齢の友だち」が71.0%で顕著に高く、これに「母親」が39.2%で続いているほかはいずれも15%未満にとどまっている。なお、「なにもしなかった」という回答も14.2%みられる。

これを中学・高校の在籍状況別にみると、回答の高い順位には顕著な差はみられないが、多くの相談相手において、中学生に比べて高校生の方が回答が高くなっており、「同年齢の友だち」「年上の友だち・先輩」「兄弟姉妹」「学校の先生」などにおいてその傾向がみられる。一方、中学生では「なにもしなかった」(市内:18.2%、市外17.2%)が2割近くを占めており、高校生(市内:6.1%、市外:11.8%)に比べて高くなっていることから、中学生の方が不安や悩みの相談相手が限定されている、もしくは相談しないで過ごす人が若干多くなっている。

*問33 中・高生の在籍状況		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
		N	同年齢の友だち	母親	年上の友だち・先輩	父親	学校の先生	兄弟姉妹	保健室の先生	祖母・祖父	塾や習いごとの先生	スクールカウンセラー	アルバイト先や仕事場の人	年下の友だち・後輩	おばさん・おじさんなどの親類の人	インターネット調べた	近所の知りあい	電話で相談した	その他	なにもしなかった	無回答
0	TOTAL	352	71.0	39.2	13.9	13.6	12.8	8.8	4.3	3.7	3.7	2.8	2.3	2.0	2.0	2.0	0.6	0.0	2.3	14.2	3.1
1	市内の中学生	159	67.9	40.3	10.1	16.4	11.9	7.5	5.0	5.0	3.1	3.1	0.0	1.3	1.3	1.3	0.6	0.0	1.9	18.2	3.8
2	市外の中学生	29	58.6	44.8	3.4	13.8	3.4	6.9	0.0	0.0	3.4	3.4	0.0	0.0	3.4	6.9	0.0	0.0	0.0	17.2	3.4
3	市内の高校生	49	73.5	49.0	16.3	8.2	18.4	12.2	2.0	4.1	4.1	0.0	2.0	4.1	2.0	0.0	0.0	0.0	2.0	6.1	2.0
4	市外の高校生	110	76.4	30.9	20.9	11.8	14.5	10.0	5.5	2.7	3.6	3.6	6.4	2.7	2.7	1.8	0.9	0.0	3.6	11.8	2.7
5	1~4以外	4	100.0	75.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

宛名の子どもの在籍別無回答 N=1を除く

5. 地域社会について

(1) となり近所とのおつきあいの程度(問20)

となり近所とどの程度のおつきあいをしているかについては、「あいさつをする程度」(70.5%)が約7割を占めて顕著に高い。次いで「ときどき立ち話をする」(11.9%)と「ほとんどつきあいはない」(11.1%)がいずれも約1割となっており、たまたま出会ったときに多少の交流を持つ程度の人がほとんどで、お互いの生活に関わりあうようなつきあい方をしている人はごく少数となっている。

これを中学・高校の在籍状況別にみると、『市外の中学生』と『市外の高校生』では「あいさつをする程度」に「ほとんどつきあいはない」(中学:17.2%、高校:11.8%)が続いているのに対し、『市内の中学生』と『市内の高校生』では「あいさつをする程度」に「ときどき立ち話をする」(中学:17.0%、高校:16.3%)が2割弱で続いており、市外通学生に比べて市内通学生の方がとなり近所とのかかわりが若干深くなっている。

		0	1	2	3	4	5	6	7
			あいさつをする程度	ときどき立ち話を する	ほとんどつきあいは ない	助けあったりしてい る 困っているときに相 談したり	家へ上がりこんで話 しをする	食事に一緒にいた り家族く	無 回 答
*問33 中・高生の在籍状 況		N							
0	TOTAL	352	70.5	11.9	11.1	2.0	1.4	1.1	2.0
1	市内の中学生	159	65.4	17.0	9.4	3.1	1.3	1.3	2.5
2	市外の中学生	29	65.5	10.3	17.2	0.0	3.4	3.4	0.0
3	市内の高校生	49	67.3	16.3	12.2	0.0	0.0	2.0	2.0
4	市外の高校生	110	80.0	2.7	11.8	1.8	1.8	0.0	1.8
5	1～4以外	4	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

宛名の子どもへの在籍別無回答 N=1を除く

(2) となり近所や地域の人たちにしてもらいたいこと(問21)(3つまでの制限回答)

となり近所や地域の人たちにしてもらいたいと思うことは、「いたずらや人に迷惑をかけていたら注意してほしい」が44.6%で最も高く、これに「子どものことを言う前に、大人がきちんとしてほしい」が39.8%で続いており、いずれも全体の4割前後の人が望んでいる。以下、「かかわってほしくない」が23.3%、「子どもあつかいしないで、子どもの意見を聞いてほしい」が20.5%となっており、一緒に遊んだり相談にのってもらおうといった積極的な交流に関わることがらはいずれも1割未満にとどまっている。

これを中学・高校の在籍状況別にみると、「いたずらや人に迷惑をかけてほしい」は高校生に比べて中学生の方が若干高くなっているのに対し、「かかわってほしくない」と「子どものことを言う前に、大人がきちんとしてほしい」は中学生に比べて高校生の方が若干高くなっている。

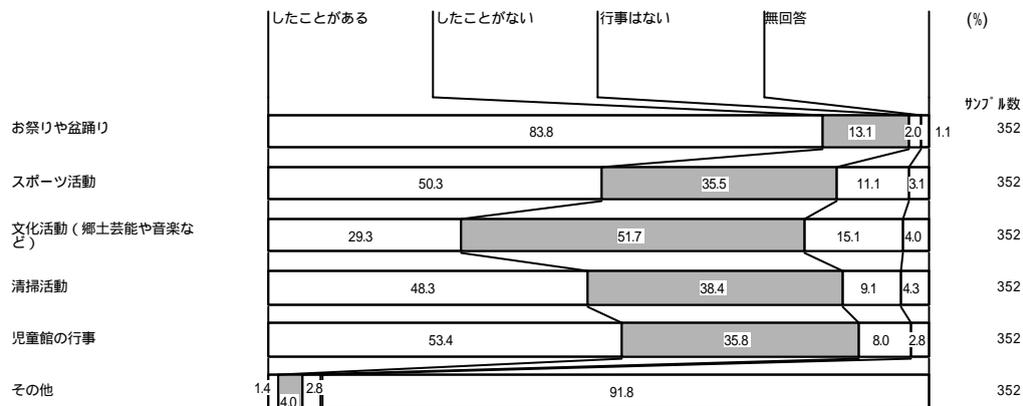
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
		いたずらや人に迷惑をかけて いたら注意してほしい	がきちんとしてほしい 子どものことを言う前に大人	子どもの意見を聞いてほしい 子どもあつかいしないで子ど	よいことをしたときにはほめ てほしい	てほしい いじめられているときは助け	してほしい スポーツや遊びをいっしょに	てほしい 悩んでいるときは相談にのっ	その他	かかわってほしくない	無 回 答	
*問33 中・高生の在籍状 況		N										
0	TOTAL	352	44.6	39.8	20.5	9.1	7.1	4.8	2.8	5.4	23.3	8.0
1	市内の中学生	159	49.7	37.1	22.6	8.8	8.2	7.5	3.8	1.9	22.6	10.1
2	市外の中学生	29	41.4	41.4	17.2	3.4	10.3	3.4	3.4	0.0	20.7	10.3
3	市内の高校生	49	38.8	36.7	12.2	16.3	0.0	2.0	4.1	12.2	24.5	6.1
4	市外の高校生	110	40.0	44.5	21.8	8.2	8.2	1.8	0.0	8.2	25.5	5.5
5	1～4以外	4	50.0	50.0	25.0	0.0	0.0	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0

宛名の子どもへの在籍別無回答 N=1を除く

(3) 地域行事への参加状況(問22)

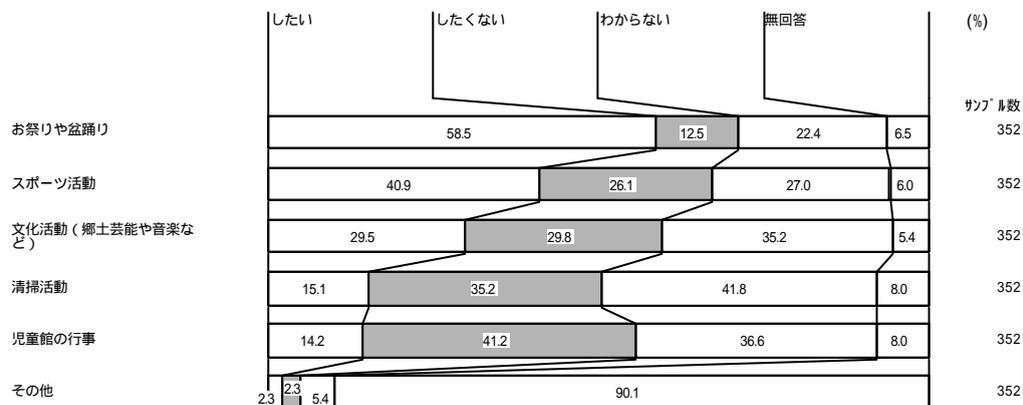
地域の行事や活動への参加状況をみると、経験率(「したことがある」という割合)が最も高いのは『お祭りや盆踊り』(83.8%)で、全体の8割以上の方が参加した経験がある。これに、『児童館の行事』(53.4%)、『スポーツ活動』(50.3%)、『清掃活動』(48.3%)が

いずれも 5 割前後で続いている。一方、『文化活動』は参加経験率が最も低く、「(参加)したことがある」(29.3%)人は約 3 割で、「(参加)したことがない」(51.7%)という人が半数以上を占めている。



(4) 地域行事への今後の参加意向(問 22)

地域の行事や活動への今後の参加希望の状況を見ると、参加希望率(「したい」という割合)が最も高いのは、参加経験率でも 1 位を占めている『お祭りや盆踊り』(58.5%)で、これに『スポーツ活動』(40.9%)が続いており、両者とも「(参加)したくない」(祭り: 12.5%、スポーツ: 26.1%)を大きく上回っている。また、参加率では『スポーツ活動』と並んで高くなっている『児童館の行事』と『清掃活動』は、「(参加)したい」(児童: 14.2%、清掃: 15.1%)が 1 割強と、顕著に低くなっている。一方、参加率が低い『文化活動』は、「わからない」が 35.2%を占めて最も高く、「(参加)したい」(29.5%)と「(参加)したくない」(29.8%)がいずれも約 3 割となっている。



(5) 地域行事に参加したくない理由(問 22 - 1)(複数回答)

地域行事への今後の参加希望(問 22)において、「(参加)したくない」と回答している人にその理由を聞いている。その結果、「めんどくさい」(59.5%)と「行ってもつまらないから」(57.2%)がいずれも 6 割近くにのぼって顕著に高くなっており、これに、「つかれるから」(34.9%)と「なんとなく」(34.4%)が約 35%で続いており、参加したくない理由というよりも、参加しようという意欲がないといった状況がうかがえる。

これを中学・高校の在籍状況別にみると、全体で最も高い「めんどくさい」は中学生では 6 割を超え、高校生に比べても一層高くなっている。そのほか、「友だちが行かないか

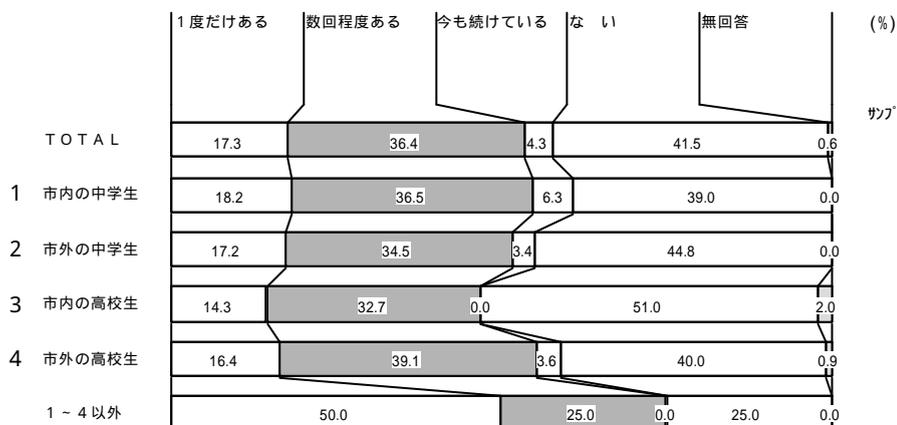
ら」「嫌な友だちがいるから」「行ってもつまらないから」といった、交友関係や内容に対する不満を理由とする割合も中学生の方が若干高くなっている。

		0	1 めんどくさい	2 行ってもつまらないから	3 つかれるから	4 なんとなく	5 友だちが行かないから	6 部活動が忙しいから	7 塾や言いごとで忙しいから	8 嫌な友だちや上級生・下級生 がいるから	9 アルバイトや仕事 が忙しいから	10 その他	11 無回答
	* 問 3 3 中・高生の在籍状況	N											
0	TOTAL	215	59.5	57.2	34.9	34.4	14.9	14.4	5.6	2.8	2.8	8.4	1.9
1	市内の中学生	98	61.2	71.4	41.8	30.6	15.3	14.3	8.2	5.1	0.0	7.1	2.0
2	市外の中学生	19	63.2	52.6	21.1	42.1	31.6	31.6	5.3	5.3	0.0	5.3	0.0
3	市内の高校生	22	45.5	31.8	18.2	36.4	13.6	18.2	0.0	0.0	0.0	13.6	4.5
4	市外の高校生	74	59.5	45.9	33.8	37.8	10.8	9.5	4.1	0.0	6.8	8.1	1.4
5	1～4以外	2	100.0	100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0

(6) ボランティア活動の経験(問23)

ボランティア活動への参加状況については、「今も続けている」とする人は4.3%である。また、「数回程度ある」が36.4%、「一度だけある」が17.3%で、これらをあわせると、参加経験のある人は58.0%と、約6割となっている。一方、参加したことが「ない」(41.5%)人も全体の約4割を占める。

これを中学・高校の在籍状況別にみると、「今も続けている」という割合は、高校生に比べて中学生(市内:6.3%、市外:3.4%)の方が若干高くなっている。



宛名の子どもに在籍別無回答 N=1を除く

(7) ボランティア活動のきっかけ(問23-1)(複数回答)

ボランティア活動に参加したことがあるという人(問23で「1」～「3」に回答)に、参加のきっかけを聞いている。その結果、「学校の活動だったから」が61.3%で顕著に高く、参加経験者の約6割は学校の活動がそのきっかけの一つとなっている。これに、「おもしろそうだったから」(27.0%)、「何か人のために役立ちたかったから」(22.1%)、「ボランティアの経験をしたかったから」(22.1%)がいずれも2～3割で続いている。

これを中学・高校の在籍状況別にみると、「学校の活動だったから」と「親や先生にやるように言われたから」は、高校生に比べて中学生の方が高く、「何か人のために役立ちたかったから」と「ボランティアの経験をしたかったから」は中学生に比べて高校生の方が高くなっており、高校生の方が、自分の意思によってボランティア活動を始める人が多

くなっている。

* 問 3 3 中・高生の在籍状況			1	2	3	4	5	6	7	8	9
N			学校の活動だったから	おもしろそうだったから	何か人のために役立ちたから	ボランティアの経験をしてみたいから	人に誘われたから	するのが当然だと思ったから	親や先生に促されたから	その他	無回答
0	TOTAL	204	61.3	27.0	22.1	22.1	15.2	10.8	8.3	7.8	0.0
1	市内の中学生	97	63.9	25.8	20.6	15.5	12.4	15.5	13.4	8.2	0.0
2	市外の中学生	16	81.3	25.0	18.8	18.8	18.8	6.3	6.3	0.0	0.0
3	市内の高校生	23	52.2	39.1	26.1	30.4	17.4	0.0	0.0	17.4	0.0
4	市外の高校生	65	55.4	24.6	24.6	30.8	18.5	9.2	3.1	6.2	0.0
5	1～4以外	3	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0

(8) 参加した(参加してみたい)ボランティア活動(問23-2)(複数回答)

これまでに参加したボランティア活動や参加してみたいボランティア活動は、「地域活動(そうじなど)」が28.4%で最も高い。以下、「寄付や募金の活動」(24.7%)と「自然・環境保護」(21.0%)が2割を超えているほか、多くの活動において15%前後の回答がみられる。なお、すべての活動が1～2割前後にとどまっていることから、ボランティア活動の種類が多岐に渡っており、また、一人当たりが回答している活動の種類も平均2種類程度とみられる。

これを中学・高校の在籍状況別にみると、『市内の中学生』では「地域活動(そうじなど)」(31.4%)が3割を超えて顕著に高くなっているのに対し、『市外の中学生』では「寄付や募金の活動」(37.9%)が4割弱にのぼって顕著に高くなっている。一方、『市外の高校生』では「地域活動(そうじなど)」(32.7%)と「寄付や募金の活動」(29.1%)とともに3割前後にのぼっている。

* 問 3 3 中・高生の在籍状況			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
N			地域活動・そうじなど	寄付や募金の活動	自然・環境保護	年下の子どもめんどろ	リサイクル	お年寄りの手助け	障害者の手助け	国際交流活動	防災活動	その他	無回答
0	TOTAL	352	28.4	24.7	21.0	18.8	18.5	17.6	11.9	11.6	4.3	4.5	21.0
1	市内の中学生	159	31.4	23.9	23.3	18.2	21.4	17.6	11.9	10.7	4.4	4.4	15.7
2	市外の中学生	29	10.3	37.9	27.6	17.2	10.3	13.8	6.9	17.2	0.0	3.4	31.0
3	市内の高校生	49	22.4	10.2	14.3	22.4	14.3	22.4	12.2	10.2	6.1	4.1	24.5
4	市外の高校生	110	32.7	29.1	20.0	18.2	17.3	16.4	13.6	11.8	4.5	5.5	24.5
5	1～4以外	4	0.0	25.0	0.0	25.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0

宛名の子どもの子の在籍別無回答 N=1を除く

(9) 市の施設の利用状況(問24)(複数回答)

市内の施設の利用状況を聞いている。その結果、利用率が最も高い施設は「図書館」(94.0%)で、9割を超えている。以下、「近くの公園」(81.3%)が約8割、「児童館」(69.3%)が約7割、「スポーツセンター」(54.0%)、「休日の学校の校庭開放」(52.8%)、「こもれびホール」(49.7%)が5割前後で続いており、いずれもほぼ半数以上の子どもが

利用している。なお、利用率が2割未満にとどまっているのは「武道場」(4.3%)と「コール田無」(5.7%)のみとなっている。

これを中学・高校の在籍状況別にみると、『市内の中学生』では、ほとんどの施設において、利用率が全体に比べて高くなっているのに対し、『市外の中学生』では、図書館を除くすべての施設において、利用率が全体に比べて低くなっており、中学生の市内施設利用率に関しては、市内通学生と市外通学生の間に大きな隔りがある。一方、高校生では、ほとんどの施設において全体と同様の傾向がみられるが、『市外の高校生』では、「公民館」の利用率が47.3%と、半数近くにのぼっており、他の在籍校に比べて高くなっている。

*問33 中・高生の在籍状況		N	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
			図書館	近くの公園	児童館	スポーツセンター	休日の学校の校庭開放	こもれびホール	公民館	休日の学校の体育館開放	市民会館	運動場	地区会館・集会所	休日の学校のプール開放	総合体育館	コール田無	武道場	無回答
0	TOTAL	352	94.0	81.3	69.3	54.0	52.8	49.7	39.5	32.7	31.0	30.7	25.3	24.1	22.2	5.7	4.3	2.0
1	市内の中学生	159	94.3	85.5	78.0	60.4	59.1	61.6	38.4	36.5	31.4	34.6	30.2	28.9	22.6	5.7	5.0	1.3
2	市外の中学生	29	100.0	62.1	58.6	20.7	44.8	27.6	34.5	13.8	31.0	17.2	13.8	20.7	3.4	3.4	0.0	0.0
3	市内の高校生	49	89.8	77.6	46.9	49.0	42.9	46.9	30.6	32.7	28.6	28.6	14.3	14.3	20.4	4.1	4.1	2.0
4	市外の高校生	110	93.6	81.8	70.0	55.5	51.8	40.0	47.3	33.6	30.9	29.1	25.5	21.8	27.3	7.3	4.5	3.6
5	1-4以外	4	100.0	100.0	75.0	50.0	25.0	25.0	25.0	0.0	50.0	25.0	50.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0

宛名の子どもに在籍別無回答 N=1を除く

(10) 市の施設の今後の利用意向(問24-1)(複数回答)

市内の施設の今後の利用意向を聞いている。その結果、利用意向が高い順に「図書館」(55.7%)、「スポーツセンター」(45.2%)、「近くの公園」(37.8%)、「こもれびホール」(26.7%)、「総合体育館」(25.0%)、「休日の学校の校庭開放」(20.5%)、「運動場」(20.5%)となっており、そのほかはいずれも2割未満にとどまっている。なお、現在の利用率(問24参照)と比べると、利用率が高い施設の多くは、利用意向でも上位を占めているが、「児童館」は利用率では3位であるが、利用意向は1割未満と下位に位置している。一方、利用率に比べて利用意向における順位があがっているのは「総合体育館」「運動場」「スポーツセンター」といった運動施設である。

これを中学・高校の在籍状況別にみると、中学生の現在の利用率においてみられたような、市内通学生と市外通学生間での差は小さくなっているが、「スポーツセンター」「運動場」「総合体育館」「休日の学校の体育館開放」といった運動施設では、利用率と同様に、『市外の中学生』の利用意向が『市内の中学生』の利用意向に比べて低くなっている。

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	
		図書館	スポーツセンター	近くの公園	こもれびホール	総合体育館	休日の学校の校庭開放	運動場	休日の学校の体育館開放	公民館	休日の学校のプール開放	市民会館	児童館	地区会館・集会所	武道場	コートは無し	無回答	
*問33 中・高生の在籍状況		N																
0	TOTAL	352	55.7	45.2	37.8	26.7	25.0	20.5	20.5	19.9	15.6	9.4	8.8	8.5	8.2	8.0	5.4	11.1
1	市内の中学生	159	51.6	46.5	37.7	30.8	26.4	25.8	23.9	23.9	15.1	15.1	9.4	11.9	10.7	10.1	4.4	9.4
2	市外の中学生	29	58.6	24.1	27.6	27.6	13.8	27.6	17.2	10.3	13.8	10.3	10.3	6.9	10.3	10.3	3.4	10.3
3	市内の高校生	49	61.2	40.8	36.7	26.5	28.6	22.4	24.5	26.5	20.4	2.0	14.3	4.1	8.2	4.1	10.2	10.2
4	市外の高校生	110	59.1	50.0	40.9	20.9	24.5	10.0	12.7	13.6	14.5	3.6	4.5	5.5	3.6	6.4	4.5	13.6
5	1-4以外	4	25.0	75.0	50.0	25.0	25.0	25.0	50.0	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	0.0	25.0	25.0

宛名の子どもの在籍別無回答 N=1 を除く

(11) 市の施設への不満(問25)(各施設につき複数回答)

市内の13の施設のそれぞれについて、不満な点を聞いている。

児童館

不満なことは「特にない」(61.6%)という意見が約6割を占めている。一方、不満な点で回答が高いのは「何をしているのかわからない」(10.8%)、「どこにあるか知らない」(10.2%)、「イベント・遊具・器具・本などがあわない」(9.7%)で、いずれも約1割となっている。

図書館

不満なことは「特にない」(69.3%)という意見が約7割を占めている。一方、不満な点に対する回答は、「イベント・遊具・器具・本などがあわない」(8.8%)と「遠すぎる」(6.3%)が5%を超えているほかは、いずれも数%にとどまっている。

スポーツセンター

不満なことは「特にない」(53.1%)という意見は5割強で、何らかの不満を感じている人が半数近くを占める。また、不満な点で特に回答が高いのは「どこにあるか知らない」(21.3%)で、約2割にのぼっており、次いで「遠すぎる」が10.2%となっている。

公民館

不満なことは「特にない」(54.0%)という意見は5割強で、何らかの不満を感じている人が半数近くを占める。また、不満な点で特に回答が高いのは「どこにあるか知らない」(19.6%)と「何をしているのかわからない」(17.9%)で、いずれも2割弱にのぼっている。

こもれびホール

不満なことは「特にない」(49.7%)という意見は約5割で、何らかの不満を感じている人が半数近くを占める。また、不満な点で特に回答が高いのは「どこにあるか知らない」(18.2%)で、約2割にのぼっており、次いで「遠すぎる」(13.6%)と「何をしているのかわからない」(11.4%)も1割を超えている。

市民会館

不満なことは「特にない」(48.0%)という意見は約5割で、何らかの不満を感じている人が半数近くを占める。また、不満な点で特に回答が高いのは「どこにあるか知らない」(27.8%)で、全体の3割弱にのぼっており、次いで「何をしているのかわからない」(16.2%)も2割近くみられる。

地区会館・集会所

不満なことは「特にない」(45.7%)という意見は4割強で、何らかの不満を感じている人が半数程度を占める。また、不満な点で特に回答が高いのは「どこにあるか知らない」(32.1%)で、全体の約3分の1にのぼっており、次いで「何をしているのかわからない」(15.9%)も1割を超えている。

コール田無

最も回答が高いのは「どこにあるか知らない」(51.7%)で、全体の約5割が回答している。また、「何をしているのかわからない」(17.9%)も2割弱にのぼっており、不満なことは「特にない」という人は33.0%と、13の施設の中で最も低く、不満を感じている人が特に多い施設である。

総合体育館

不満なことは「特にない」(44.9%)という意見は4割強で、何らかの不満を感じている人が半数程度を占める。また、不満な点で特に回答が高いのは「どこにあるか知らない」(38.6%)で、全体の約4割にのぼっており、次いで「何をしているのかわからない」(8.2%)が約1割となっている。

武道場

最も回答が高いのは「どこにあるか知らない」(51.1%)で、全体の約5割が回答している。また、「何をしているのかわからない」(11.1%)も約1割みられ、不満なことは「特にない」という人は36.1%と、13の施設の中でも『コール田無』に次いで低く、不満を感じている人が特に多い施設である。

休日の学校の校庭開放

不満なことは「特にない」(75.9%)という意見が全体の約4分の3を占めており、不満な点に対する回答はいずれも5%未満にとどまっている。

休日の学校の体育館開放

不満なことは「特にない」(75.0%)という意見が全体の4分の3を占めており、不満な点に対する回答はいずれも5%未満にとどまっている。

休日の学校のプール開放

不満なことは「特にない」(75.6%)という意見が全体の約4分の3を占めており、不満な点に対する回答はいずれも5%未満にとどまっている。

			1 どこにあるかわからない	2 遠すぎる	3 何をしているのかわからない	4 利用手続きがめんどう	5 子どもだけで利用できない	6 日曜日や祝日に利用できない	7 どがあわない イベント・遊具・器具・本	8 その他	9 特にな	10 無回答
*問25 市の施設への不満		N										
0	TOTAL	4,576	20.9	3.3	8.8	3.7	2.5	1.0	2.5	1.8	55.5	5.5
1	児童館	352	10.2	2.3	10.8	3.1	3.1	2.6	9.7	1.7	61.6	2.6
2	図書館	352	1.4	6.3	0.6	4.0	0.3	3.7	8.8	5.7	69.3	2.6
3	スポーツセンター	352	21.3	10.2	4.8	8.5	2.6	0.3	0.9	1.7	53.1	3.1
4	公民館	352	19.6	2.6	17.9	5.1	1.7	0.3	0.6	0.9	54.0	4.3
5	こもれびホール	352	18.2	13.6	11.4	4.5	4.0	0.0	1.1	0.9	49.7	3.7
6	市民会館	352	27.8	3.7	16.2	2.3	1.7	0.0	1.4	0.9	48.0	4.3
7	地区会館・集会所	352	32.1	0.0	15.9	4.0	4.3	0.0	0.6	1.4	45.7	3.7
8	コールド無	352	51.7	0.9	17.9	1.1	1.4	0.0	0.3	1.1	33.0	4.0
9	総合体育館	352	38.6	2.8	8.2	5.4	2.0	0.3	0.0	1.7	44.9	3.4
10	武道場	352	51.1	1.1	11.1	1.1	2.0	0.0	0.3	0.6	36.1	3.7
11	休日の学校の校庭開放	352	0.0	0.0	0.0	2.3	3.1	2.3	4.0	2.3	75.9	11.6
12	休日の学校の体育館開放	352	0.0	0.0	0.0	3.1	4.0	2.8	2.8	2.3	75.0	11.6
13	休日の学校のプール開放	352	0.0	0.0	0.0	3.4	2.8	1.4	2.6	2.8	75.6	12.5

(12) 子どもが利用しやすい遊び場や施設にするために必要なこと(問26)(複数回答)

子どもが使いやすい遊び場や施設にするために必要とされることについては、「子どもの意見をとり入れる」(68.8%)が最も高く、以下、「利用料を無料にする」(66.2%)、「日曜日や祝日も利用できるようにする」(61.9%)、「利用手続きを簡単にする」(54.3%)となっており、いずれも半数以上の方が回答している。一方、最も回答が低いのは「子どもが施設の運営にかかわる」で、他の多くの項目で3割以上の回答がみられるにもかかわらず、12.5%にとどまっている。

これを中学・高校の在籍状況別にみると、全体で1位を占めている「子どもの意見をとり入れる」は、高校生(市内:55.1%、市外:63.6%)では6割前後で3位となっているのに対し、中学生(市内:77.4%、市外:65.5%)では7割前後にのぼって最も高くなっている。また、施設の利用率が低い『市外の中学生』(問24参照)では、「特にな」(10.3%)が1割を超えて他の在籍校に比べて高くなっており、そのほかのほとんどの選択肢は『市内の中学生』に比べて低くなっている。

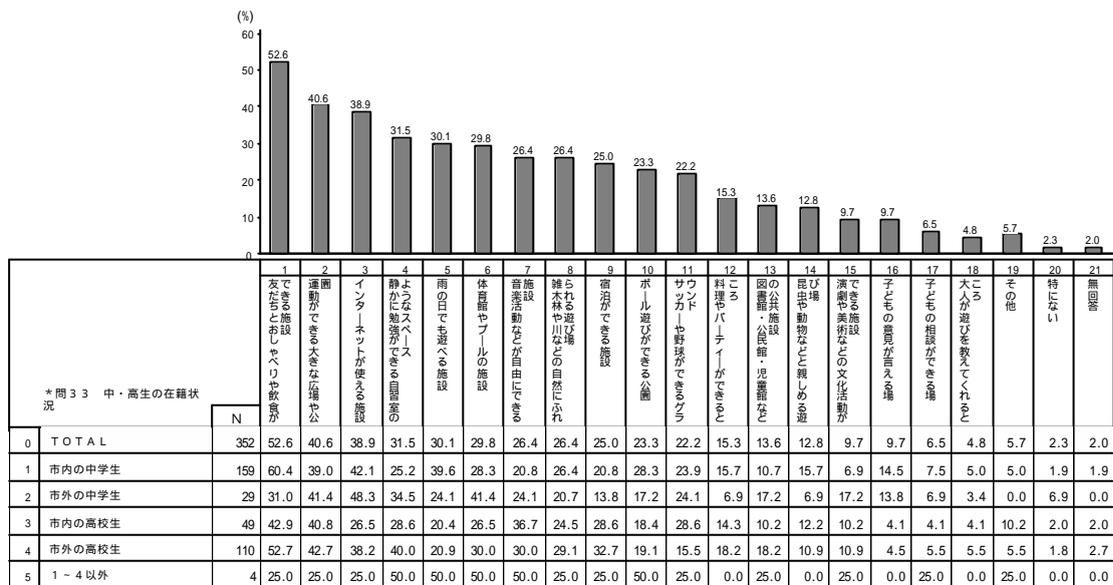
			1 子ども の意見 をとり 入れる	2 利用 料を 無料 にする	3 日 曜 日 や 祝 日 も 利 用 で き る よ う に す る	4 利 用 手 続 き を 簡 単 に す る	5 子 ど も が 自 由 に 集 ま れ る よ う に す る	6 開 館 時 間 を 長 く す る	7 施 設 を 近 く に し て 増 や す	8 子 ど も が 企 画 ・ イ ベ ン ト な ど を す る	9 マ ッ プ な ど の 広 報 活 動 を す る	10 子 ど も が 施 設 の 運 営 に か わ る	11 そ の 他	12 特 に な い	13 無 回 答
*問33 中・高生の在籍状況		N													
0	TOTAL	352	68.8	66.2	61.9	54.3	47.7	42.3	30.1	22.2	19.6	12.5	3.1	4.8	1.4
1	市内の中学生	159	77.4	68.6	60.4	62.9	53.5	43.4	33.3	24.5	16.4	15.7	2.5	4.4	1.3
2	市外の中学生	29	65.5	55.2	58.6	34.5	44.8	44.8	34.5	20.7	17.2	6.9	6.9	10.3	0.0
3	市内の高校生	49	55.1	69.4	57.1	46.9	44.9	38.8	22.4	20.4	20.4	8.2	2.0	2.0	2.0
4	市外の高校生	110	63.6	65.5	67.3	50.0	40.9	41.8	27.3	20.9	25.5	11.8	2.7	5.5	1.8
5	1-4以外	4	75.0	50.0	75.0	75.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0

宛名の子どもの在籍別無回答 N=1を除く

(13) 近くにほしい遊び場や施設(問27)(5つまでの制限回答)

近くにほしい遊び場や施設で最も要望が高いのは「友だちとおしゃべりや飲食ができる施設」(52.6%)で、半数以上の人が必要している。次いで、「運動ができる大きな広場や公園」(40.6%)、「インターネットが使える施設」(38.9%)がいずれも約4割、「静かに勉強ができる自習室のようなスペース」(31.5%)と「雨の日でも遊べる施設」(30.1%)がいずれも約3割となっており、運動施設から文化施設、交流施設まで要望が多岐に渡っている。なお、「その他」への回答が5.7%となっているが、その具体的な内容をみると、「テニスコート」と「バスケットゴール」が多くなっている。

これを中学・高校の在籍状況別にみると、『市内の中学生』『市内の高校生』『市外の高校生』では「友だちとおしゃべりや飲食ができる施設」(順に60.4%、42.9%、52.7%)が最も高くなっているのに対し、『市外の中学生』ではそれは約3割(31.0%)にとどまり、「インターネットが使える施設」(48.3%)が約5割で1位となっている。また、「音楽活動などが自由に行える施設」と「宿泊ができる施設」は、全体では上位に含まれていないが、高校生では3~4割前後(音楽活動/市内36.7%、市外:30.0% 宿泊/市内:28.6%、市外:32.7%)にのぼって上位を占め、中学生に比べて顕著に高くなっている。



宛名の子どもの在籍別無回答 N=1を除く

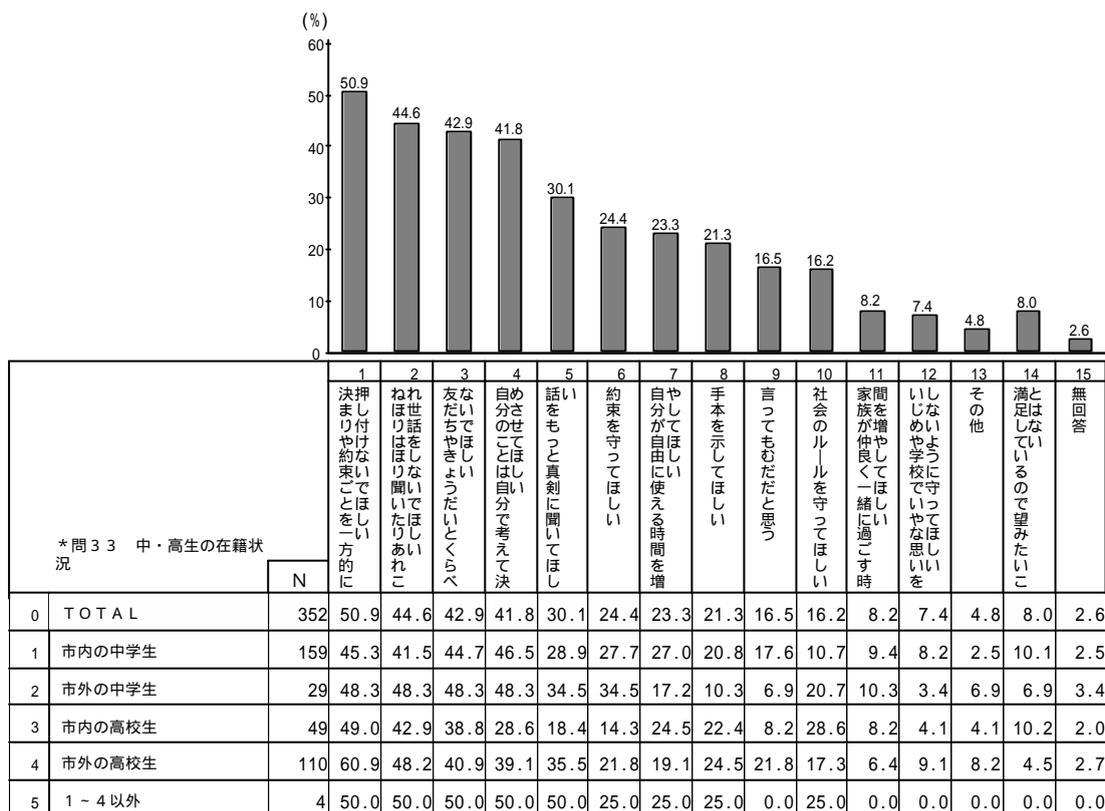
6. 子どもの権利について

(1) 子どもと接するとき、大人に心がけてほしいこと(問28)(5つまでの制限回答)

大人として心がけてほしいことは、「きまりや約束ごとを一方向的に押しつけないでほしい」(50.9%)が約5割で最も高く、これに、「ねほりはほり聞いたり、あれこれ世話をしないほしい」(44.6%)、「友だちやきょうだいと比べないほしい」(42.9%)、「自分のことは自分で決めさせてほしい」(41.8%)がいずれも4割強で続いており、自主性の尊重に対する要望が上位に多数みられる。なお、「言ってもむだだと思う」(16.5%)とする人

も2割近くを占める。

これを中学・高校の在籍状況別にみると、中学生では、「きまりや約束ごとを一方的に押しつけないでほしい」「ねほりはほり聞いたり、あれこれ世話をしないほしい」「友だちやきょうだいと比べないでほしい」「自分のことは自分で決めさせてほしい」のいずれもが45%前後で1～4位を占めており、中でも「友だちやきょうだいと比べないでほしい」と「自分のことは自分で決めさせてほしい」は高校生に比べて高くなっている。一方、高校生では「きまりや約束ごとを一方的に押しつけないでほしい」(市内：49.0%、市外：60.9%)が5～6割にのぼり、2位以下を引き離して最も高く、中学生に比べても高くなっている。



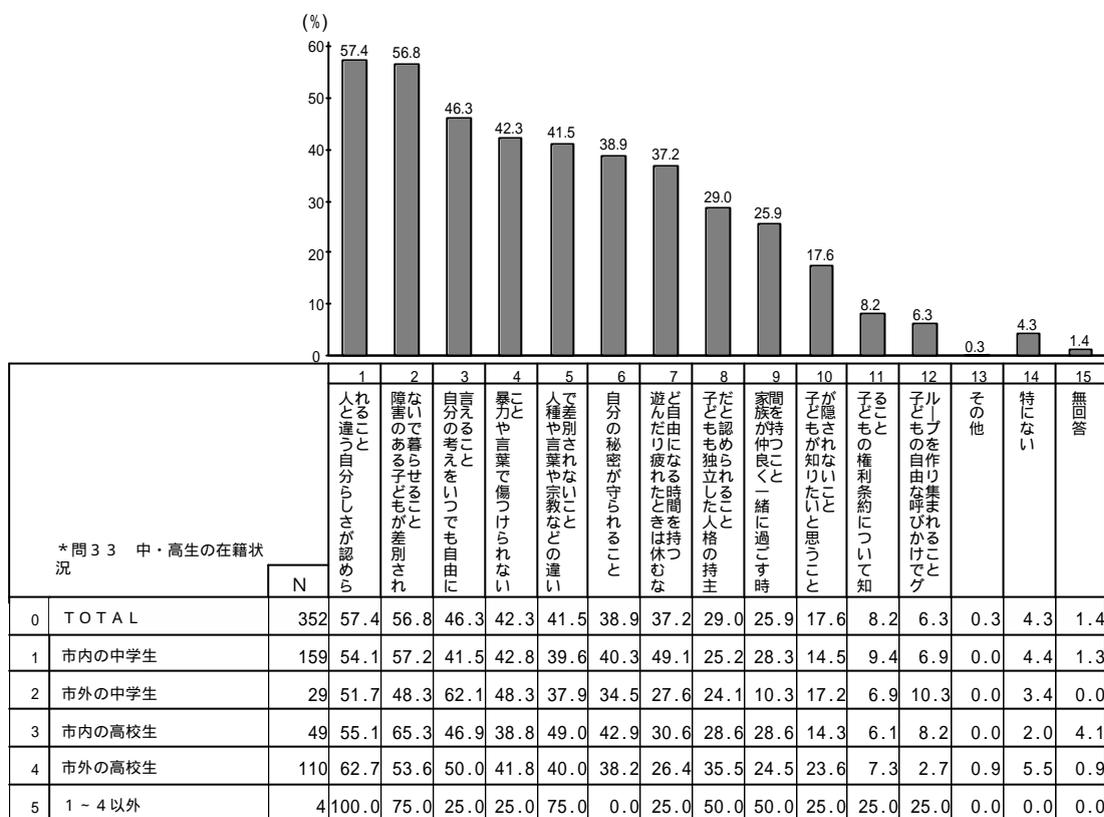
宛名の子どもへの在籍別無回答 N=1を除く

(2) 子どもの権利で特に大切だと思うこと(問29)(5つまでの制限回答)

子どもの権利で特に大切だと思うことについては、「人と違う自分らしさが認められること」(57.4%)と「障害のある子どもが差別されないで暮らせること」(56.8%)がいずれも6割弱で最も高くなっている。以下、「自分の考えをいつでも自由に言えること」(46.3%)、「暴力や言葉で傷つけられないこと」(42.3%)、「人種や言葉や宗教などの違いで差別されないこと」(41.5%)、「自分の秘密が守られること」(38.9%)、「遊んだり、疲れたときは休むなど自由になる時間を持つ」(37.2%)がいずれも4割前後と、ほとんどの項目において3分の1以上の回答がみられる。

これを中学・高校の在籍状況別にみると、『市内の中学生』と『市内の高校生』では「障害のある子どもが差別されないで暮らせること」(中学：57.2%、高校：65.3%)が6割前後にのぼって1位となっている。一方、『市外の中学生』では「自分の考えをいつでも自由に言えること」(62.1%)が、『市外の高校生』では「人と違う自分らしさが認められるこ

と」(62.7%) がいずれも 6 割を超えて 1 位となっている。また、「子どもも独立した人格の持ち主だと認められること」は、全体では 3 割未満にとどまっているが、『市外の高校生』では 35.5%にのぼり、「遊んだり、疲れたときは休むなど自由になる時間を持つ」(26.4%) を上回っている。



宛名の子どもへの在籍別無回答 N=1 を除く

7. 男女関係・結婚・子育て観について

(1) 男女関係・結婚・子育てに対する考え方(問30)

結婚や子育てに関する以下の11の考え方に対してどのように思うかを聞いている。

結婚は個人の自由だから、してもしなくてもよい

「そう思う」(78.1%) が約 8 割を占める。これに「ややそう思う」(16.5%)が続いており、両者を合わせると 94.6%と、「結婚は個人の自由」と考える人が約 95%を占めている。11の考え方の中でも、『子育ては男女が共同して行うほうがよい』と並んで肯定的な意見が最も高くなっている。

結婚してもうまくいかなければ離婚することはやむをえない

「そう思う」(42.9%) が 4 割強で最も高く、これに「ややそう思う」(35.2%)が続いており、両者を合わせると 78.1%と、「離婚もやむをえない」と考える人が約 8 割を占めている。

できちゃった婚をしても幸せであれば問題ない

「そう思う」(61.9%)が約6割を占める。これに「ややそう思う」(27.0%)が続いており、両者を合わせると88.9%と、「できちゃった婚でも問題ない」と考える人が約9割を占めている。

結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない

「そう思う」(59.4%)が約6割を占める。これに「ややそう思う」(21.6%)が続いており、両者を合わせると81.0%と、「結婚しても子どもを持たなくてもよい」と考える人が約8割を占めている。

結婚はしたくないが、子どもはほしい

「そう思わない」(51.1%)が約5割を占めて最も高く、これに「あまりそう思わない」(36.9%)が続いており、両者を合わせると88.0%にのぼる。「結婚はしたくないが子どもはほしい」という意見に対しては約9割が否定しており、11の考え方の中でも否定的な意見が最も高くなっている。

子どもの数や産む時期を決めるのは、女性自身の意見を尊重したほうがよい

「そう思う」(33.2%)は3割強にとどまっているものの、「ややそう思う」(44.6%)が4割を超えて最も高く、両者を合わせると77.8%と、「子どもの数や出産時期の決定には女性の意見を尊重する」と考える人が8割近くを占めている。

子育ては女性の役割である

「そう思う」とする人は3.1%にとどまり、『結婚はしたくないが子どもはほしい』と並んで低い。「ややそう思う」(22.4%)とする人は2割強みられるものの、「あまりそう思わない」(38.6%)と「そう思わない」(34.4%)をあわせると73.0%にのぼり、「子育ては女性の役割」とする意見に対しては、4分の3近くの人が否定している。

子育ては男女が共同して行うほうがよい

「そう思う」(71.0%)が約7割を占める。これに「ややそう思う」(23.9%)が続いており、両者を合わせると94.9%と、「子育ては男女共同で」と考える人が約95%を占めている。11の考え方の中でも、『結婚は個人の自由だから、してもしなくてもよい』と並んで肯定的な意見が最も高くなっている。

子どもが3歳になるまでは、母親が家庭で育てるほうがよい

「そう思う」(31.3%)は約3割にとどまっているものの、「ややそう思う」(34.1%)も3割を超えており、両者を合わせると65.4%と、「3歳までは母親が育てるのがよい」と考える人が約3分の2を占めている。一方、「あまりそう思わない」(23.9%)や「そう思わない」(9.4%)といった否定的な意見も3分の1にのぼっており、11の考え方の中では、『女性も子育て期に仕事をやめるべきでない』に次いで相反する意見が高くなっている。

家事は男女が共同して行うほうがよい

「そう思う」(54.3%)が5割強を占める。これに「ややそう思う」(35.8%)が続いており、両者を合わせると90.1%と、「家事は男女共同で」と考える人が約9割を占めている。

女性も子育て期に仕事をやめるべきでない

「あまりそう思わない」が37.8%で最も高く、これに「ややそう思う」が29.5%で続いており、11の考え方の中では、明確な意見(「そう思う」「そう思わない」)の割合が最も低くなっている。また、「そう思う」(18.5%)もしくは「ややそう思う」という人は48.0%、「そう思わない」(12.2%)もしくは「あまりそう思わない」という人は50.0%となっており、「女性が子育て期に仕事を継続する」ことに関しては意見が分かれている。

